

(様式第10)

神大医患第 54号  
令和元年10月4日

厚生労働大臣

殿

開設者名

国立大学法人  
神戸大学 (印)

神戸大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、平成30年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
氏名	国立大学法人 神戸大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

神戸大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒650-0017 神戸市中央区楠町7丁目5-2	電話(078) 382-5111
--------------------------	------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
内科と組み合わせた診療科名等	
① 呼吸器内科                      ② 消化器内科                      ③ 循環器内科                      ④ 腎臓内科	
5 神経内科                          ⑥ 血液内科                          7 内分泌内科                      8 代謝内科	
⑨ 感染症内科                      10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科                      11 リウマチ科	
診療実績	
「神経内科」の診療内容は脳神経内科、「内分泌内科」の診療内容は糖尿病内分泌内科、「代謝内科」及び「リウマチ内科」の診療内容は「内科」、「アレルギー疾患内科またはアレルギー科」の診療内容は「内科」、「呼吸器内科」、「皮膚科」等で提供している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	□ 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
外科と組み合わせた診療科名	
① 呼吸器外科	2 消化器外科
3 乳腺外科	4 心臓外科
5 血管外科	⑥ 心臓血管外科
7 内分泌外科	⑧ 小児外科
診療実績	
「消化器外科」の診療内容は食道・胃腸外科、「乳腺外科」及び「内分泌外科」の診療内容は乳腺・内分泌外科で提供している。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科	② 小児科	③ 整形外科	④ 脳神経外科	⑤ 皮膚科
⑥ 泌尿器科	⑦ 産婦人科	8 産科	9 婦人科	⑩ 眼科
⑫ 放射線科	13 放射線診断科	14 放射線治療科	⑮ 麻酔科	⑯ 救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	□ 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 小児歯科	② 矯正歯科
3 口腔外科	
歯科の診療体制	
通常の歯科診療内容は歯科口腔外科で提供している。	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 腫瘍・血液内科	2 放射線腫瘍科	3 リハビリテーション科	4 美容外科	5 形成外科
6 耳鼻いんこう頭頸部外科	7 病理診断科	8 脳神経内科	9 糖尿病内分泌内科	10 食道・胃腸外科
11 肝臓・胆のう・膵臓外科	12 乳腺・内分泌外科	13 歯科口腔外科	14	15
16	17	18	19	20

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
46 床	0 床	0 床	0 床	888 床	934 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	624 人	216 人	722.8 人	看護補助者	41 人	診療エックス線技師	0 人
歯科医師	27 人	9 人	32.1 人	理学療法士	19 人	臨床検査技師	76 人
薬剤師	74 人	1 人	74.8 人	作業療法士	7 人	検査衛生検査技師	0 人
保健師	0 人	0 人	0.0 人	視能訓練士	13 人	その他	0 人
助産師	46 人	0 人	46.0 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看護師	861 人	18 人	873.7 人	臨床工学士	38 人	医療社会事業従事者	13 人
准看護師	0 人	0 人	0.0 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	45 人
歯科衛生士	4 人	0 人	4.0 人	歯科技工士	2 人	事 務 職 員	260 人
管理栄養士	13 人	0 人	13.0 人	診療放射線技師	56 人	その他の職員	39 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	89 人	眼 科 専 門 医	12 人
外 科 専 門 医	70 人	耳鼻咽喉科専門医	17 人
精 神 科 専 門 医	12 人	放射線科専門医	28 人
小 児 科 専 門 医	24 人	脳神経外科専門医	12 人
皮 膚 科 専 門 医	9 人	整形外科専門医	31 人
泌尿器科専門医	24 人	麻 酔 科 専 門 医	21 人
産 婦 人 科 専 門 医	15 人	救 急 科 専 門 医	7 人
		合 計	371 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 病院長 平田 健一 ) 任命年月日 平成30年 2月 1日

医療安全管理委員会委員長 (平成30年 2月 1日～) 医療安全管理委員会委員 (平成25年10月 1日～平成30年 1月31日)
--

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	766.2人	13.9人	780.1人
1日当たり平均外来患者数	2,034.7人	100.2人	2,134.9人
1日当たり平均調剤数	1,499.5剤		
必要医師数	198.0人		
必要歯科医師数	8.0人		
必要薬剤師数	26.0人		
必要(准)看護師数	463.0人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	602.72 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	32床	心電計	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
			人工呼吸装置	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	心細動除去装置	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
			その他の救急蘇生装置	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	ペースメーカー	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積		35.30 m <sup>2</sup>	病床数	5床 (クラス100)	
			722.35 m <sup>2</sup>	病床数	65床 (クラス100以外)	
	[移動式の場合] 台数		4台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積		51.24 m <sup>2</sup>			
	[共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	438.00 m <sup>2</sup>		(主な設備)	自動臨床化学分析装置		
細菌検査室	88.00 m <sup>2</sup>		(主な設備)	微生物分類同定分析装置同定・薬剤感受性パネル自動測定装置		
病理検査室	247.00 m <sup>2</sup>		(主な設備)	クリオスタット, ウルトラマイクロトーム, 染色装置		
病理解剖室	67.00 m <sup>2</sup>		(主な設備)	解剖台, オートクレーブ, 写真撮影機		
研究室	430.00 m <sup>2</sup>		(主な設備)			
講義室	1,217.00 m <sup>2</sup>		室数	6室	収容定員	1,082人
図書室	2,145.00 m <sup>2</sup>		室数	1室	蔵書数	約15万冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

### 11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	88.6%	逆紹介率	45.8%
算出根拠	A：紹介患者の数	22,213人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	12,073人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	1,138人	
	D：初診の患者の数	26,369人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

### 12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
寺尾 秀一	加古川中央市民病院 副院長/臨床研究・ 治験センター長/診療 部長/内科主任科部長 /医療安全管理部長/ 医療安全推進室長	○	医療に係る安全管理 又は法律に関する識 見を有する者その他 の学識経験を有する 者	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
丸山 英二	京都府立医科大学大学院 医学研究科 客員教授(非常勤)		医療に係る安全管理 又は法律に関する識 見を有する者その他 の学識経験を有する 者	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
武田 高	関西住宅品質保証株式会 社監査役 (非常勤)		医療を受ける者その 他の医療従事者以外 の者	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
				<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
				<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
				<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	
				<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
  2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
  3. その他

### 13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
公表の方法	
ホームページ	





## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	脳死肝腎同時移植手術	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要 肝腎同時移植は、移植先進国の米国においても移植黎明期には禁忌と考えられていたが、肝臓臓器配分システムにクレアチニンが考慮されるようになった2002年以降急激に増加し、現在では年間400例前後の肝不全患者に対し肝腎同時移植が実施されるようになった。日本国内においては、2012年以降実施されるようになり、これまで18例の肝腎同時移植が実施されている。			
医療技術名	ロボット支援下腎盂形成術	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要 腎盂形成術は、腎盂尿管移行部狭窄症に対して行われる標準的な治療法であるが、従来は開放性手術や腹腔鏡下手術が行われてきた。今回のロボット支援手術では、人間の手以上の可動域を持つロボットアームにより鉗子の操作性が向上し、欧米からの報告でも、手術時間、とくに縫合時間の短縮が報告されている。それにともない、入院日数の短縮も報告されている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎摘除術	取扱患者数	0 人
当該医療技術の概要 腎腫瘍(腎癌、腎盂尿管癌)に対しては、腹腔鏡下腎摘除術が標準的な治療である。この腹腔鏡手術では、開腹手術に比し切開創が小さく、術後早期からの社会復帰が可能となっている。しかしながら、腹腔鏡での鉗子操作は、経験の浅い医師にとっては、なかなか困難であり術者として安全に手術を行えるまでに多数の経験が必要である。今回のロボット支援手術では3Dの拡大視野の下、ロボットアームの高い自由度があり、人の手指と同様に器用に動き、かつ手振れもないため、確実・安全に手術を遂行できることにより腎摘除術においても過半数を占めるようになってきている。			
医療技術名	腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術	取扱患者数	0 人
当該医療技術の概要 傍大動脈リンパ節郭清が必要な子宮体癌症例に対しても腹腔鏡手術が先進医療として施行されており、子宮体癌治療ガイドライン2018でもグレードC1で腹腔鏡による傍大動脈リンパ節郭清が明記されている。本邦におけるⅠ・Ⅱ期の中・高リスク群に対する多施設共同後方視的研究では、腹腔鏡群と開腹群を比較したところ、手術時間、術中合併症は両群間に有意差はなく、出血量は腹腔鏡群で有意に少なかった。リンパ節摘出数は腹腔鏡群で少ない結果であったが、十分な数のリンパ節が摘出されており、再発率については両群間で有意差はなかった。			
医療技術名	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体癌に対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	取扱患者数	0 人
当該医療技術の概要 以前は開腹手術にて子宮全摘+両側付属切除+骨盤リンパ節郭清を行っていたが、子宮体癌治療ガイドライン 2018年では可能な症例は上記手術を低侵襲手術で行うことがグレードBで推奨されており、現在は低侵襲手術として腹腔鏡手術とロボット支援下手術が行われている。ロボット支援下手術は腹腔鏡手術に比べて拡大視が可能であり、婦人科悪性腫瘍手術の様な骨盤最深部の手術に適している。開腹術と比較すると出血量、輸血率、合併症に関してはロボット手術が優れ、リンパ節摘出数に差がないが手術時間が延長すること、腹腔鏡手術と比較すると開腹移行率、合併症、出血量、入院期間でロボット手術が優れており、手術時間、輸血率、リンパ節摘出数には差がないことが示されている。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	10	56	ベーチェット病	117
2	筋萎縮性側索硬化症	22	57	特発性拡張型心筋症	153
3	脊髄性筋萎縮症	18	58	肥大型心筋症	120
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	14	60	再生不良性貧血	24
6	パーキンソン病	261	61	自己免疫性溶血性貧血	16
7	大脳皮質基底核変性症	12	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	8
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	90
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	4
10	シャルコー・マリー・トゥース病	17	65	原発性免疫不全症候群	6
11	重症筋無力症	175	66	IgA腎症	136
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	2
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	130	68	黄色靱帯骨化症	4
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	49	69	後縦靱帯骨化症	5
15	封入体筋炎	6	70	広範脊柱管狭窄症	0
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	87
17	多系統萎縮症	39	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	109	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	20
21	ミトコンドリア病	18	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	27	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	2	78	下垂体前葉機能低下症	17
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	1	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	3	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	0	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	74
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	17
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	50
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	95
34	神経線維腫症	14	89	リンパ管筋腫症	8
35	天疱瘡	4	90	網膜色素変性症	7
36	表皮水疱症	2	91	バッド・キアリ症候群	4
37	膿疱性乾癬(汎発型)	0	92	特発性門脈圧亢進症	3
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	4	93	原発性胆汁性肝硬変	17
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	10
40	高安動脈炎	15	95	自己免疫性肝炎	78
41	巨細胞性動脈炎	24	96	クローン病	24
42	結節性多発動脈炎	29	97	潰瘍性大腸炎	62
43	顕微鏡的多発血管炎	37	98	好酸球性消化管疾患	11
44	多発血管炎性肉芽腫症	43	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	2
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	32	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	7	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	6	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	103	GFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	454	104	コストロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	175	105	チャージ症候群	1
51	全身性強皮症	43	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	68	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	325	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	26	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	8	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	16	161	家族性良性慢性天疱瘡	2
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	5
113	筋ジストロフィー	19	163	特発性後天性全身性無汗症	11
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	1
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	7
117	脊髄空洞症	22	167	マルファン症候群	33
118	脊髄髄膜瘤	2	168	エーラス・ダンロス症候群	2
119	アイザックス症候群	3	169	メンケス病	6
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	1
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	3	177	有馬症候群	3
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	1
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	1
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	3	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	2
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	8
144	レノックス・ガストー症候群	2	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	4
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	1
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	1
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	1
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	15	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	42	208	修正大血管転位症	5
159	色素性乾皮症	61	209	完全大血管転位症	1
160	先天性魚鱗癬	2	210	単心室症	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	システロール血症	104
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	43	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	6	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	7	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	20	266	家族性地中海熱	9
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	23	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	233	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	16
224	紫斑病性腎炎	22	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	6
227	オスラー病	21	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーム病	2
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	10	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	4	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	2
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	7	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	8
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	26
244	メープルシロップ尿症	5	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	4	293	総排泄腔遺残	2
246	メチルマロン酸血症	11	294	先天性横隔膜ヘルニア	2
247	イソ吉草酸血症	2	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	9
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性肺炎	0
251	尿素サイクル異常症	2	299	嚢胞性線維症	1
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	28
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	3
254	ポルフィリン症	5	302	レーベル遺伝性視神経症	4
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュヤー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	13
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	23

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	1
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	5
318	シトリン欠損症	1	330	先天性気管狭窄症	9
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
地域歯科診療支援病院歯科初診料	ハイリスク妊娠管理加算
歯科外来診療環境体制加算2	ハイリスク分娩管理加算
歯科診療特別対応連携加算	呼吸ケアチーム加算
特定機能病院入院基本料(一般7:1、精神13:1)	後発医薬品使用体制加算1
超急性期脳卒中加算	病棟薬剤業務実施加算1、2
診療録管理体制加算1	データ提出加算2イ
医師事務作業補助体制加算1(20:1)	提出データ評価加算(届出不要)
急性期看護補助体制加算(50:1)	入退院支援加算1
看護職員夜間配置加算イ	入院時支援加算
看護補助加算	精神疾患診療体制加算
療養環境加算	精神科急性期医師配置加算
重症者等療養環境特別加算	特定集中治療室管理料2
無菌治療室管理加算1(5床)、2(23床)	ハイケアユニット入院医療管理料1
緩和ケア診療加算	総合周産期特定集中治療室管理料
精神科応急入院施設管理加算	新生児治療回復室入院医療管理料
精神病棟入院時医学管理加算	小児入院医療管理料2
精神科身体合併症管理加算	
精神科リエゾンチーム加算	
摂食障害入院医療管理加算	
栄養サポートチーム加算	
医療安全対策加算1	
感染防止対策加算1	
感染防止対策地域連携加算	
抗菌薬適正使用支援加算	
患者サポート体制充実加算	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料	人工中耳植込術
糖尿病合併症管理料	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
がん性疼痛緩和指導管理料	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
がん患者指導管理料イ	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
がん患者指導管理料ロ	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
がん患者指導管理料ハ	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
外来緩和ケア管理料	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	精密触覚機能検査
移植後患者指導管理料(造血管細胞移植後)	乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
糖尿病透析予防指導管理料	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
院内トリアージ実施料	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
外来放射線照射診療料	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ニコチン依存症管理料	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
がん治療連携計画策定料	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
排尿自立指導料	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
肝炎インターフェロン治療計画料	内視鏡下筋層切開術
薬剤管理指導料	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
医療機器安全管理料1	胸腔鏡下弁形成術
医療機器安全管理料2	経カテーテル大動脈弁置換術
医療機器安全管理料(歯科)	胸腔鏡下弁置換術
総合医療管理加算(歯科疾患管理料)	経皮的中隔心筋焼灼術
歯科治療時医療管理料	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
遺伝学的検査	大動脈バルーンポンピング法(IABP法)

骨髄微小残存病変量測定	経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定査)	補助人工心臓
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	植込型補助人工心臓(非拍動流型)
検体検査管理加算(IV)	腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
国際標準検査管理加算	腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
遺伝カウンセリング加算	腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
胎児心エコー法	胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	体外衝撃波胆石破碎術
ヘッドアップティルト試験	腹腔鏡下肝切除術
長期継続頭蓋内脳波検査	生体部分肝移植術
神経学的検査	同種死体肝移植術
補聴器適合検査	体外衝撃波膀胱石破碎術
ロービジョン検査判断料	腹腔鏡下膀胱腫瘍摘出術
コンタクトレンズ検査料1	腹腔鏡下膀胱体尾部腫瘍切除術
小児食物アレルギー負荷検査	同種死体膀胱移植術、同種死体膀胱腎移植術
内服・点滴誘発試験	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
画像診断管理加算3	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
ポジトロン断層撮影	腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影	同種死体腎移植術
CT撮影及びMRI撮影	生体腎移植術
冠動脈CT撮影加算	膀胱水圧拡張術
心臓MRI撮影加算	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
乳房MRI撮影加算	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
頭部MRI撮影加算	人工尿道括約筋植込・置換術
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
外来化学療法加算1	腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
無菌製剤処理料	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
心大血管疾患リハビリテーション料(I)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡下手術用支援機器を用いる場合)
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
運動器リハビリテーション料(I)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)

呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	輸血管理料Ⅰ
がん患者リハビリテーション料	貯血式自己血輸血管理体制加算
歯科口腔リハビリテーション料2	コーディネート体制充実加算
精神科作業療法	自己生体組織接着剤作成術
精神科ショート・ケア「小規模なもの」	自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
医療保護入院等診療料	歯周組織再生誘導手術
口腔粘膜処置	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
口腔粘膜血管腫凝固術	歯根端切除手術の注3
レーザー機器加算	麻酔管理料(Ⅰ)
エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	麻酔管理料(Ⅱ)
エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	放射線治療専任加算
人工腎臓 慢性維持透析を行った場合1	外来放射線治療加算
導入期加算2及び腎代替療法実績加算	高エネルギー放射線治療
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	1回線量増加加算(全乳房照射)
磁気による膀胱等刺激法	1回線量増加加算(前立腺照射)
手術用顕微鏡加算	強度変調放射線治療(IMRT)
CAD/CAM冠	画像誘導放射線治療加算(IGRT)
有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2	体外照射呼吸性移動対策加算
センチネルリンパ節加算	定位放射線治療
組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	画像誘導密封小線源治療加算
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	保険医療機関間の連携による病理診断
後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
腫瘍脊椎骨全摘術	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	病理診断管理加算2
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	デジタル病理画像による病理診断
加刺刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び加刺刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	悪性腫瘍病理組織標本加算
羊膜移植術	クラウン・ブリッジ維持管理料
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	歯科矯正診断料
網膜再建術	顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)



## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
神経皮膚症候群に関する診療科横断的な診療体制の確立	錦織 千佳子	皮膚科学	19,200,000	(補) 国立保健医療科学院 委
神経皮膚症候群に関する診療科横断的な診療体制の確立	上田 健博	神経内科	800,000	(補) 国立保健医療科学院 委
ホルモン受容機構異常に関する調査研究	小川 渉	糖尿病・内分泌・総合内科学	400,000	(補) 国立保健医療科学院 委
指定難病に該当する胎児・新生児骨系統疾患の現状調査と診療ガイドラインの改定に関する研究	大森 崇	臨床研究推進センター	700,000	(補) 国立保健医療科学院 委
IgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	全 陽	病理学	500,000	(補) 国立保健医療科学院 委
IgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	児玉 裕三	消化器内科学	600,000	(補) 国立保健医療科学院 委
がんの医療提供体制および医療品質の国際比較:高齢者がん医療の質向上に向けた医療体制の整備	掛地 吉弘	食道胃腸外科学	870,000	(補) 厚生労働省 委
特発性好酸球増加症候群の診療ガイドライン作成に向けた疫学研究	片山 義雄	血液内科	250,000	(補) 国立保健医療科学院 委
ブラダー・ウィリ症候群における診療ガイドラインの作成	高橋 裕	糖尿病・内分泌・総合内科学	300,000	(補) 国立保健医療科学院 委
先天性呼吸器・胸郭形成異常疾患に関する診療ガイドライン作成ならびに診療体制の構築・普及に関する研究	前田 貢作	小児外科学	450,000	(補) 国立保健医療科学院 委
我が国の関節リウマチ診療の標準化に関する臨床疫学研究	森信 暁雄	腎臓・免疫内科学	140,000	(補) 厚生労働省 委
アミロイドーシスに関する調査研究	西 慎一	腎臓内科学	200,000	(補) 国立保健医療科学院 委
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	高橋 裕	糖尿病・内分泌・総合内科学	200,000	(補) 国立保健医療科学院 委
大規模医療データを利用した医療ICT利用の効果検証に関する研究	小林 大介	医療システム学	700,000	(補) 厚生労働省 委
大規模データを用いた、地域の医療従事者確保対策に関する研究	小林 大介	医療システム学	1,624,000	(補) 厚生労働省 委
スモンに関する調査研究	関口 兼司	神経内科学	300,000	(補) 厚生労働省 委
難治性血管腫・血管奇形・リンパ管腫・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究	野村 正	形成外科	300,000	(補) 国立保健医療科学院 委
良質なエビデンスに基づく急性脳症の診療に向けた体制整備	永瀬 裕朗	小児科学	300,000	(補) 国立保健医療科学院 委
小児腎領域の希少・難治性疾患群の診療・研究体制の確立	野津 寛大	小児科学	300,000	(補) 国立保健医療科学院 委
小児腎領域の希少・難治性疾患群の診療・研究体制の確立	森貞 直哉	小児科学	300,000	(補) 国立保健医療科学院 委
化学物質の動物個体レベルの免疫毒性データ集積とそれに基づくMulti-ImmunoTox assay(MITA)による予測性試験法の確立と国際標準化	大森 崇	臨床研究推進センター	999,000	(補) 国立医薬品食品衛生研究所長 委
希少癌診療ガイドラインの作成を通じた医療提供体制の質向上	丹生 健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	300,000	(補) 厚生労働省 委

小計 22

1 研究費補助等の実績

慢性疼痛診療体制構築モデル事業	溝渕 知司	麻酔科学	300,000	補委	厚生労働省
外科領域における抜本的なタスクシフティングの手法についての研究	掛地 吉弘	食道胃腸外科学	400,000	補委	厚生労働省
新規修飾リボトールリン酸の病態生理機能に着目した福山型筋ジストロフィーの発症機序の解明と治療法の開発	金川 基	分子脳科学	13,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新たな根治的粒子線治療を実現する吸収性スパーサーの適応拡大と実用化研究	佐々木 良平	放射線腫瘍科	29,410,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Precision Medicineによるパーキンソン病の次世代治療ストラテジー開発	佐竹 渉	分子脳科学	13,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
頭頸部癌全国症例登録システムの構築と臓器温存治療のエビデンス創出	丹生 健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	9,110,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
小児難治性頻回再発型・ステロイド依存性ネフローゼ症候群を対象としたリツキシマブ治療併用下でのミコフェノール酸モフェチルの多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験	飯島 一誠	小児科学	32,280,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Alport症候群に対する新規治療法の開発	野津 寛大	小児科学	19,500,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
肝炎ウイルスの感染複製増殖と病原性発現を阻止するための基盤的研究	勝二 郁夫	感染制御学	2,500,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
培養細胞感染系が確立されていない病原体の新たな感染複製系等の開発とそれを用いた診断・治療・予防法の開発に向けた研究	勝二 郁夫	感染制御学	1,400,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
睡眠脳波を用いたうつ病の客観的評価方法の実用化に関する研究	大森 崇	臨床研究推進センター	5,382,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
医療の質の向上及び効率化に向けた、肝移植手術におけるリスクモデルの作成とエビデンスの創出	掛地 吉弘	食道胃腸外科学	100,001	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
難治性リンパ管疾患レジストリを活用したリンパ管疾患鑑別診断法の確立及び最適治療戦略の導出	平島 正則	血管生物学	520,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ゲノム不安定性疾患群を中心とした希少難治性疾患の次世代マルチオミクス診断拠点構築	錦織 千佳子	皮膚科学	1,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
人工核酸・短鎖ペプチドを用いたゲノム不安定性疾患の新規治療薬開発	錦織 千佳子	皮膚科学	1,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脳脊髄液サンプルを用いたうつ病バイオマーカーの開発	菱本 明豊	病理部・病理診断科	910,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
未診断疾患イニシアチブ (Initiative on Rare and Undiagnosed Disease(IRUD)):希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究	飯島 一誠	小児科学	5,200,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
多施設共同研究による移植後肝炎ウイルス再発に対する標準的治療の確立	福本 巧	肝胆膵外科学	200,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
多機能幹細胞を用いた自然免疫再構築による新規肝炎/肝癌治療法の開発	的崎 尚	シグナル統合学	1,300,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
病理医不足を解決するWSIを用いた医療チームによるMedical Artsの創成研究	伊藤 智雄	病理部・病理診断科	350,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
小児リンパ腫の標準的治療法の確立	森 健	小児科学	650,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ウイルス性肝疾患を含む代謝関連肝がん発生の病態解明に関する研究	勝二 郁夫	感染制御学	3,900,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

1 研究費補助等の実績

薬事承認申請をめざした福山型筋ジストロフィーアンチセンス核酸治療薬の非臨床試験と自然歴・バイオマーカー探索・治験プロトコル作成	小林 千浩	分子脳科学	31,999,999	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
母子感染に対する母子保健体制構築と医療技術のための研究	山田 秀人	産科婦人科学	1,300,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
レポーターHBVを駆使したHBV複製解析および創薬研究	勝二 郁夫	感染制御学	5,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ゲノム医療の実装に資する臨床ゲノム情報統合データベースの整備と我が国の継続的なゲノム医療実施体制の構築	南 博信	腫瘍・血液内科学	2,340,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
次世代眼科医療を目指す、ICT/人工知能を活用した画像等データベースの基盤構築	中村 誠	眼科学	390,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
診療連携・国際連携をも視野にいれた、生活習慣病、CKDの診療の質向上に直結する多施設長期コホート研究	西 慎一	腎臓内科学	169,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
希少・難治性疾患領域における臨床ゲノムデータストレージの整備に関する研究	飯島 一誠	小児科学	7,072,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
C型肝炎における慢性肝炎から発がんに至るまでの病態解明とその制御に関する研究	勝二 郁夫	感染制御学	1,750,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
B型肝炎ウイルスの感染環を制御する宿主因子の探索と解析	勝二 郁夫	感染制御学	6,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ミスフォールド蛋白質・HLAクラスII分子複合体を標的にした自己免疫疾患の新たな診断法・治療法の開発	山田 秀人	産科婦人科学	1,300,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
トキソプラズマ症の総合的対策に向けた開発研究	山田 秀人	産科婦人科学	1,300,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
血液バイオマーカーを用いた効率的な膵がん検診の実用化	吉田 優	病因病態解析学	2,200,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
進行頭頸部がんに対する術後補助療法の標準治療確立のための多施設共同研究	清田 尚臣	腫瘍センター	4,550,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Borderline resectable膵癌に対する集学的治療法を用いた標準治療確立に関する研究	福本 巧	肝胆膵外科学	260,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
進行上顎洞癌に対する超選択的動注化学療法を併用した放射線治療による新規治療法開発に関する研究	清田 尚臣	腫瘍センター	650,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
進行上顎洞癌に対する超選択的動注化学療法を併用した放射線治療による新規治療法開発に関する研究	四宮 弘隆	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	520,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
不育症の原因解明、予防治療に関する研究	山田 秀人	産科婦人科学	3,380,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
医薬品開発時の薬物依存性の評価のための薬理学的アプローチに関する研究	古屋敷 智之	薬理学	1,300,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
HPV関連中咽頭癌の治療最適化に関する研究	丹生 健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	2,600,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
病理学的Stage II/IIIで“vulnerable”な80歳以上の高齢者胃癌に対する開始量を減量したS-1術後補助化学療法に関するランダム化比較第III相試験	掛地 吉弘	食道胃腸外科学	1,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
HER2陽性再発転移の唾液癌に対する個別化治療の開発	清田 尚臣	腫瘍センター	390,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ゲノム・転写物・代謝物を融合した統合オミックス解析による稀少難治性疾患の病態解明	児玉 裕三	消化器内科学	1,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

1 研究費補助等の実績

IgG4関連疾患の新規バイオマーカーと治療ターゲット開発に関する研究	児玉 裕三	消化器内科学	2,210,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
真に個別患者の診療に役立ち領域横断的に高い拡張性を有する変異・多型情報データベースの創成	飯島 一誠	小児科学	1,300,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脳クレアチン欠乏症の創薬・治療エビデンスの創出	吉田 優	病因病態解析学	1,300,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
福山型筋ジストロフィーに対する低分子化合物スクリーニングを用いた分子標的治療法開発	青井 三千代	再生医療臨床応用実現化人材育成センター	3,447,750	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
FGM/CGMの血糖管理における精度・有用性の検証及び健康寿命促進のための血糖変動指標の探索	廣田 勇士	糖尿病・内分泌内科学	140,062	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
機械受容応答を支える膜・糖鎖環境の解明と筋疾患治療への展開	金川 基	分子脳科学	38,187,500	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
腸管神経系の形成と維持における組織間相互作用	榎本 秀樹	神経分化・再生	5,200,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
包括的メタボロミクスによるバイオマーカー探索、ならびに、医療質量分析システム開発	吉田 優	病因病態解析学	47,060,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
先端医療機器の開発/高い安全性と更なる低侵襲化及び高難度治療を可能にする軟性内視鏡手術システムの研究開発	佐々木 良平	放射線腫瘍科	400,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
心筋メカノバイオロジー機構の解明による心不全治療法の開発/クライオ電子線トモグラフィー法による心筋メカノバイオロジー機構の構造基盤の解明	仁田 亮	生体構造解剖学	11,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ストレス関連疾患を担う機能性脂質の探索と機能解析に基づく臨床応用のための技術基盤の創出	古屋敷 智之	薬理学	74,685,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
疾患特異的iPS細胞を用いた下垂体疾患モデルの創出を目指した研究	高橋 裕	糖尿病・内分泌内科学	45,300,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
老化機構・制御研究拠点/加齢に伴う細胞形態・運動制御の異常の分子機構	南 康博	細胞生理学	13,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
老化機構・制御研究拠点/神経細胞の老化機構	水谷 清人	病態シグナル学	39,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
個体・臓器老化研究拠点/膝島老化の分子機構の解明	清野 進	分子代謝医学	19,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
老化研究推進・支援拠点/メタボローム解析支援・技術開発	清野 進	分子代謝医学	6,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
老化研究推進・支援拠点/老化研究推進支援拠点の形成	高井 義美	病態シグナル学	2,600,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
神経芽腫に対する新規治療剤の探索	榎本 秀樹	神経分化・再生	9,900,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
色素性乾皮症治療薬の探索	錦織 千佳子	皮膚科学	7,520,020	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
神経-生体システム連関のレジリエンス機能の統合的解明/神経-生体システム連関のレジリエンス機能の統合的解明	南 康博	細胞生理学	8,450,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ヒト腸内細菌Bacteroides2菌種の抗炎症作用機序の解明と慢性炎症性疾患治療への応用	山下 智也	循環器内科	10,400,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
p53活性化新規抗がん薬の探索	前濱 朝彦	分子細胞生物学	2,495,900	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
糖鎖利用による革新的創薬技術開発事業/ラミン結合性機能糖鎖を応用した筋ジストロフィー治療薬の開発	小林 千浩	分子脳科学	975,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

1 研究費補助等の実績

ホログラム光刺激による神経回路再編の人為的創出	和氣 弘明	システム生理学	66,950,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
超高純度マグネシウム生体吸収性ポーンプレート・スクリューの製品化	橋川 和信	形成外科	25,000,000	補 委	埼玉県
新規マグネシウム合金を応用した生体吸収性体内用結さつクリップの開発・事業化	福本 巧	肝胆膵外科学	10,800,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
アーチファクトを抑え、可撓性と骨親和性を備える非金属製脊椎固定インプラントの開発	角谷 賢一朗	整形外科学	2,094,000	補 委	兵庫県
新規生体吸収性合金を用いた高精度定位放射線治療用マーカーの開発	佐々木 良平	放射線腫瘍科	2,987,000	補 委	兵庫県
自家末梢血CD34陽性細胞移植による骨・血管再生療法に関する医師主導治験	黒田 良祐	整形外科学	52,800,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
癌抑制遺伝子を標的とする癌治療法の開発	鈴木 聡	分子細胞生物学	21,674,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ネクチン関連分子と増殖因子受容体/インテグリンの相互作用を標的としたがん治療法	高井 義美	病態シグナル学	22,815,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
マージナルドナー腎移植の安全性に関する新規エビデンス創出研究	西 慎一	腎臓内科学	9,100,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
食細胞-がん細胞相互作用を制御する新たながん免疫療法の開発	的崎 尚	シグナル統合学	21,104,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
SS-MIX2を基礎とした大規模診療データの収集と利活用に関する研究	小川 涉	糖尿病・内分泌内科学	29,786,120	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
特殊環状ペプチドを中核とした革新的次世代バイオ医薬品開発の加速	勝二 郁夫	感染制御学	3,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
パーキンソン病に対する真の意味のオーダーメイド治療を目指した研究	佐竹 涉	分子脳科学	22,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
(AMED補助金)国産医療機器創出促進基盤整備等事業	永井 洋士	臨床研究推進センター	16,541,444	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
健康寿命の延伸を目指した次世代医療橋渡し研究支援拠点	児玉 裕三	消化器内科学	1,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
人生の最終段階における医療体制整備事業委託費	木澤 義之	緩和支援治療科	65,747,000	補 委	厚生労働省
7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン	南 博信	腫瘍・血液内科学	18,438,000	補 委	文部科学省
質量分析計を用いた皮革製品の簡便な動物種鑑定法の開発	波多野 直哉	シグナル統合学	1,560,000	補 委	独立行政法人日本学術振興機構
膜変形タンパク質のプロテオスタシスを基軸とする小胞体の恒常性維持機構の解明	山本 泰憲	膜動態学	1,430,000	補 委	独立行政法人日本学術振興機構
PICT1を起点とした核小体ストレス経路の解明と癌制御	前濱 朝彦	分子細胞生物学	1,560,000	補 委	独立行政法人日本学術振興機構
接着力の差を並び替えに変換して自律的に組織をつくるメカニズム	富樫 英	分子細胞生物学	1,560,000	補 委	独立行政法人日本学術振興機構
ユビキチン化反応による小胞体の柔軟な形状変化	梶保 博昭	膜動態学	1,560,000	補 委	独立行政法人日本学術振興機構
アストロサイトによるRor2を介した脳内炎症制御機構が組織修復に果たす役割の解明	遠藤 光晴	細胞生理学	1,560,000	補 委	独立行政法人日本学術振興機構
軸索ガイダンスにおけるリンクスの機能と作用機構	萬代 研二	シグナル統合学	1,560,000	補 委	独立行政法人日本学術振興機構
パーキンソン病の病態におけるS1P受容体シグナルおよびエキソソーム放出の関与	岡田 太郎	生化学	1,300,000	補 委	独立行政法人日本学術振興機構

1 研究費補助等の実績

チック症の発現機序を紐解く-光イメージング法を用いたアプローチ	橘 吉寿	システム生理学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
亜鉛欠乏症への亜鉛要求性タンパク質恒常性維持シグナル伝達機構破綻の関与	枝松 裕紀	生理学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
脂肪性軟部腫瘍は正確に病理診断されているか？ 実践的診断アルゴリズムの確立	廣瀬 隆則	病理診断科	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
食道扁平上皮癌の発癌初期段階におけるマクロファージ・線維芽細胞の協調作用の解析	狛 雄一郎	病理学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
Ras阻害剤による乳がん骨転移抑制機構の解明	吉川 陽子	生理学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
肥満によるがん発症進展の分子機構	下野 洋平	分子細胞生物学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
膵がんにおける代謝バイオマーカーの確立	小林 隆	消化器内科学	2,470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
赤血球膜結合IgG抗体の検出による大腸癌スクリーニング法の確立	川本 晋一郎	輸血・細胞治療部	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
鍼刺激で発見したAig1遺伝子の生物学的機能と鍼治療効果との関連の研究	高岡 裕	医療情報部	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
がん患者の突出痛治療における予防的オピオイドレスキュー効果の検討	西島 薫	緩和支援治療科	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
幼少期ストレスとmiRNAに着目した気分障害の診断と治療に直結する病態解明研究	朴 秀賢	精神医学	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
AIによる肺癌超低線量CT検診及び肺結節鑑別診断用コンピューター支援装置開発	竹中 大祐	放射線診断学	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
エクソソームの細胞特異性を利用した新規放射線増感剤の開発	犬伏 祥子	放射線腫瘍学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
去勢抵抗性前立腺癌のRa-223療法におけるNaF PET/MRの有用性検討	野上 宗伸	放射線部	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
無機ナノ粒子を用いた放射線治療増感効果の最適化の検討	西村 英輝	放射線腫瘍科	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
福山型筋ジストロフィーの中枢症状の克服を目指した評価系構築と治療法の確立	池田 真理子	小児科	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
タイチン分解酵素を阻害するDuchenne型筋ジストロフィーの新しい治療標的	栗野 宏之	小児科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
持続性心房細動における心房線維化ならびに局所的炎症部位への非薬物的治療の確立	木内 邦彦	循環器内科学分野不整脈先端治療学部門	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
網羅的手法を用いたHDL機能を規定する因子の基礎臨床融合研究	石田 達郎	医学教育学医学教育学部門	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
新規HDL機能評価指標の実用性の検証と規定因子の同定	杜 隆嗣	立証検査医学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
超微小粒子PM0.1の呼吸器疾患へ与える影響の解析	西村 善博	呼吸器内科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
常染色体優性間質性腎疾患(ADTKD)のゲノム診療体制の基盤構築	森貞 直哉	小児科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
TFL発現異常による免疫制御の破綻が引き起こすがん病態悪化機構の解明	皆川 健太郎	糖尿病・内分泌・総合内科学	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
代謝をターゲットとした自己免疫疾患の新規治療法の開発	三枝 淳	検査部	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
関節リウマチにおけるエクソソームの病態への関与の解明	中町 祐司	検査部	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構

1 研究費補助等の実績

インスリン抵抗性の発症におけるNOシグナルの意義	楯谷 三四郎	糖尿病・内分泌・総合内科学	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
脂肪細胞のインスリン-mTOR経路による代謝調節機構とNASHの病態解明	細岡 哲也	糖尿病・内分泌・総合内科学先進代謝疾	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
自己免疫性下垂体疾患の発症メカニズムの解明と臨床応用	井口 元三	糖尿病・内分泌内科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
炎症低減化を目指した新たな生体適合素材の開発	小松 昇平	肝胆膵外科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
肺大細胞神経内分泌癌の抗癌剤感受性における神経内分泌因子の役割	田中 雄悟	呼吸器外科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
新生児期疼痛による行動異常に対する神経活動マッピングとネットワーク機能変化の解明	野村 有紀	麻酔科学	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
最大気流速に向かって進む画期的な気管挿管デバイスの開発と実用化に向けた研究	溝渕 知司	麻酔科学	2,210,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
網羅的炎症解析による難治性けいれん重積状態の病態解明と新しい診断・治療法の開発	永瀬 裕朗	小児科学分野こども急性疾患学部門	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
腫瘍関連マクロファージ免疫チェックポイント阻害による新規膠芽腫治療法の基礎研究	西原 賢在	脳神経外科学	2,210,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
脳虚血再灌流障害におけるATMキナーゼ経路の役割解明と新たな脳梗塞治療への応用	細田 弘吉	脳神経外科学	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
メタボローム解析を用いた原発性中枢性リンパ腫における新規バイオマーカーの探索	水川 克	脳神経外科学	2,210,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
ヒト脂肪由来再生幹細胞による難治性骨折治療に関する基礎研究	松本 知之	整形外科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
iPS細胞作製技術を用いた人工骨肉腫幹細胞の樹立と機能解明	河本 旭哉	国際がん医療・研究推進学先進的がん医	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
EPAを用いた変形性関節症治療への挑戦	林 申也	整形外科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
内耳有毛細胞ときこえを守る支持細胞の働き	勝沼 紗矢香	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
頭頸部癌における骨髄由来抑制細胞とアデノシン代謝	井之口 豪	耳鼻咽喉・頭頸部外科	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
OCTを用いた内リンパ水腫軽減効果のin vivoイメージングに関する研究	柿木 章伸	地域医療ネットワーク学	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
糖尿病網膜神経変性におけるneurovascular unitの役割の解明	楠原 仙太郎	眼科学	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
アクアポリノパチーとしての網膜・視神経変性の病態解明	中村 誠	眼科学	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
乳児血管腫におけるstem cellの関与 ～増殖・分化制御機構の解明～	櫻井 沙由理	形成外科学	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
治療抵抗性の改善と副作用の軽減を目指した革新的ながん治療法の開発応用	長谷川 巧実	歯科口腔外科	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
心臓性突然死の病態における炎症分子ペントラキシン3の関与と法実務への応用	高橋 玄倫	法医学	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
腸上皮細胞のターンオーバーを制御する新規細胞外因子の同定とその機能解析	金野 祐	シグナル統合学	2,470,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
脂肪酸代謝を介した小胞体の形態形成機構	内田 安則	膜動態学	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
知覚学習時の情報統合メカニズムの解明	宮本 愛喜子	システム生理学	2,730,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構

1 研究費補助等の実績

Platelet activation plays a repulsive role of lymphatic to blood vessels in mouse peripheral tissues	劉 シンイ	血管生物学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
社会ストレスによる神経形態変化を導く神経グリア相互作用の超微細細胞生物学的解明	永井 裕崇	薬理学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
肝臓癌のエクソーム解析と病理診断の基盤構築	藤倉 航平	病理診断学	2,470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
CD47-SIRP $\alpha$ シグナルによる樹状細胞ならびにリンパ組織制御機構の解明	齊藤 泰之	シグナル統合学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
リボソーム異常によるがんの発症・進展機構の解明	大谷 淳二	分子細胞生物学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
Hippo経路破綻による舌がん発症マウスモデルの樹立	上田 史仁	分子細胞生物学	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
空間的分割グリッド法を用いた放射線治療による悪性神経腫に対する新規治療戦略	石原 武明	放射線医学, 放射線科	2,470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
活性型Rasタンパク質のGTPを標的とした赤外レーザーによる抗腫瘍療法の開発	松本 耕祐	口腔外科学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
がん免疫研究モデルとして免疫ヒト化MSI-H大腸がん異種移植マウスモデルの開発	船越 洋平	腫瘍・血液内科	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
終末期がん患者の呼吸困難による苦痛緩和薬物療法の開発に関する研究	山口 崇	先端緩和医療学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
多発性硬化症におけるPD-1陽性T細胞を用いた進行性病態の解明	千原 典夫	脳神経内科	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
MIFから考える統合失調症の分子病態と抗精神病薬の新たな作用機序	岡崎 賢志	精神医学, 精神科神経科	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
腸内細菌へ介入するうつ病の予防法開発のための研究	蓬萊 政	精神科神経科	2,600,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
統合失調症患者のIPS細胞を利用した前頭前皮質の発生、シナプス形成の生物モデル化	江口 典臣	精神科神経科	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
FMISO-PETを用いた炭酸ガス療法による腫瘍の低酸素状態改善のイメージング	丸山 晃司	放射線診断学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
インビボ線量測定を可能にする標的体積内埋め込み型マイクロ線量計の開発	矢田 隆一	放射線腫瘍科	2,340,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
4D-CT画像加算処理技術を用いた造影剤80%減量CTAの臨床応用	堀之内 宏樹	放射線診断・IVR科	2,730,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
マウス未熟脳障害モデルを用いた胎児付属物・臍帯血由来幹細胞による新規治療薬の開発	李 進剛	小児科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
胎便性腹膜炎モデルマウスに対する薬物的HO-1誘導/MSCs投与併用療法の開発	藤岡 一路	総合周産期母子医療センター	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
臨床データベースと患者検体を活用したサイトカインストーム型急性脳症の病態解明	西山 将広	親と子の心療部	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
ステロイド感受性ネフローゼ症候群の病態発症機序の解明	堀之内 智子	小児科学分野こども総合療育学部門	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
WT1遺伝子変異によるFrasier症候群の病態解明および新規治療法の開発	長野 智那	小児科学分野こども急性疾患学部門	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
高脂肪食が胃MALTリンパ腫の発生進展に与える影響とその機構の解明	渡邊 大輔	消化器内科学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
関節リウマチモデルを用いた組織特異的MDSCサブセットの探索と新規治療への応用	千藤 荘	腎臓・免疫内科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構

1 研究費補助等の実績

異なる研究レベルの融合による、関節リウマチの個別化医療の開発	大西 輝	膠原病リウマチ内科	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
脂肪細胞の脂肪滴形態とエネルギー代謝特性を繋ぐオートファジー機構の研究	西本 祐希	糖尿病・内分泌・総合内科学	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
視床下部下垂体相互作用におけるFGFシグナルの病態生理学的意義の解明	松本 隆作	糖尿病・内分泌内科	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
経皮的肝灌流門注化学療法の実臨床応用にむけた薬物血中動態に関する研究	水本 拓也	肝胆膵外科学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
術後維持輸液の選択が患者予後に与える影響を検討する無作為化比較試験	古島 夏奈	麻酔科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
慢性痛患者の安静時脳機能的结合へのケタミンの影響	本山 泰士	麻酔科	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
糖尿病モデルマウスにおける術後認知機能障害と予防策	東南 杏香	麻酔科	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
慢性高血糖の糖尿病モデルにおける至適な術前血糖管理の開発	藤本 大地	循環器内科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
大脳皮質第一次体性感覚野の生体イメージングによる疼痛発症・維持機構の病態解明	岡田 卓也	放射線部	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
重症頭部外傷の脳代謝についてメタボミクス分析を用いた病態解析と予後予測の検討	中井 友昭	脳神経外科学	3,120,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
グリオーマにおけるRac1-GSPT1軸をターゲットとした新規治療薬の開発	石井 大嗣	脳神経外科学	2,470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
明細胞肉腫に対するLAT-1阻害剤を用いた新たな抗癌剤治療法の実臨床応用の開発	森下 雅之	整形外科	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
Kinematical alignment TKAのバイオメカニクスの検討	高山 孝治	整形外科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
細胞移植を必要としない骨再生治療の創出-新規開発骨誘導型コラーゲンを用いた挑戦	深瀬 直政	整形外科	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
細胞低接着性コラーゲンLASCelを用いた脊椎椎間板再生	由留部 崇	整形外科	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
分子マーカーを用いた軟部肉腫の新規リスク分類の創出	小松 正人	病理診断科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
生殖不全とhuman herpesvirus 6 & 7との関係解明	長又 哲史	産科婦人科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
脈絡膜血管形態及び脈絡膜血管新生におけるYAP/TAZの役割の解明	松宮 亘	眼科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
中心性漿液性脈絡網膜炎における漿液性網膜剥離の病態解明	三木 明子	眼科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
レーベル遺伝性視神経症の発症予防・治療を目指した病態研究	上田 香織	眼科	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対する機能的電気刺激法の開発	坪井 康典	リハビリテーション部	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
新規ラットモデルを用いた糖尿病遺伝素因と病態発症・進展機構の解明	横井 伯英	細胞生理学	7,410,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
ミクログリアによる高次脳機能維持機構とその破綻	和氣 弘明	システム生理学	7,410,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
新規リポーターリン酸糖鎖の修飾機序の解明と生理活性の治療応用	金川 基	分子脳科学分野分子脳科学部門	5,980,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
SIPシグナルを介したエキソソーム放出の分子機構の解析	中村 俊一	生化学	6,890,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構

1 研究費補助等の実績

次世代技術を用いた希少胆膵疾患の網羅的DNA・プロテオーム解析	全 陽	病理診断学	9,230,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
骨髄造血大環境としての骨組織の解析	片山 義雄	血液内科	6,890,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
糖尿病のインクレチン応答性インスリン分泌不全の分子機構解明とその治療戦略の確立	清野 進	細胞生理学分野分子代謝医学部門	6,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
光による皮膚概日リズム形成の意義を探る	寺師 浩人	形成外科	7,930,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
がん細胞の生存・維持の分子機構の解明	的崎 尚	シグナル統合学	18,980,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
細胞極性と接着の制御による3次元細胞選別機構の解明	富樫 英	分子細胞生物学	4,940,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
発振現象を基軸としたパーキンソン病の病態解明とオプトDBS開発	橘 吉寿	システム生理学	2,860,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
ストレスによる認知情動変容を担う多階層プロセスと精神疾患への関与の構成的理解	古屋敷 智之	薬理学	37,310,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
SIPシグナルを介したパーキンソン病の病態解析	中村 俊一	生化学	3,770,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
クライオ電子顕微鏡を用いた心筋リモデリングの分子基盤の解明	仁田 亮	生体構造解剖学	3,120,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
CD28分子集簇能による胃癌抗PD-1抗体療法におけるresponder群の同定	掛地 吉弘	食道胃腸外科学	2,340,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
神経活動依存性髄鞘形成の分子基盤の解明:脳白質は可塑的であるか?	杉尾 翔太	システム生理学	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
脂肪幹細胞を用いたドラッグデリバリーシステムによる新規がん治療法の開発	川上 洋平	整形外科	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
メタルナノ粒子を吸着した薬剤溶出性ビーズによる新規放射線増感療法の基礎的検討	窪田 光	放射線腫瘍科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
頸動脈狭窄症における脆弱プラーク形成への小胞体ストレス応答関与機構の解明	今堀 太郎	脳神経外科学	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
慢性心不全患者に対する、下肢陽圧負荷心エコー図検査による予後予測効果に関する検討	松本 賢亮	循環器内科	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
運動療法による炎症制御機構:脂質メディエーターを介した新規機序の解明	小林 成美	総合臨床教育センター	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
ChREBPによるGLUT2の発現制御を介した血糖調節機構の解明	中川 勉	薬剤部	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
グルタミン代謝経路の解明による新規がん治療法の開発	入野 康宏	立証検査医学	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
Dystrophin intron retention analysis to identify new targets for Antisense Oligonucleotide mediated RNA modulation in Rhabdomyosarcoma	ニバ タベ・エマ・エコ	疫学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
スペシャルボビュレーション投与设计のための実臨床におけるファーマコメト릭ス	矢野 育子	薬剤部	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
薬剤性肺線維症の分子メカニズムの解明とゲノム薬理学的解析の統合的研究	山本 和宏	薬剤部	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
RETチロシンキナーゼの活性化レベル変動と神経系形成異常の相関についての検証	上坂 敏弘	神経分化・再生	1,950,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
アディオカインとケモカインの特性を併せ持つケマリンの代謝と炎症調節機構の解明	高橋 路子	栄養管理部	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構

1 研究費補助等の実績

リン脂質を介した新しい小胞体ストレス応答メカニズムの解明	伊集院 壮	生化学	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
腸上皮細胞の寿命を制御する分子基盤の解明	小谷 武徳	シグナル統合学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
腸上皮細胞特異的チロシンホスファターゼによる腸管免疫制御機構の解析	村田 陽二	シグナル統合学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
YAP1/TAZによる細胞間コミュニケーション	西尾 美希	分子細胞生物学	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
地域包括ケアシステムの構築を担う地域医療人材の効果的な教育手法の考案	岡山 雅信	医学教育学分野地域医療教育学部門	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
抗がん剤による神経障害の発現機序の解明	久米 学	薬剤部	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
心臓性突然死におけるOPG-RANKL軸の解析	近藤 武史	法医学	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
高精度な新規低温症診断マーカーの開発と超生体反応に伴う分子動態の解明	上野 易弘	法医学	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
新規CEACAM1ライガンドの同定とその機能解析	近藤 靖之	消化器内科学	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
脂肪酸が不整脈と血栓形成に及ぼす影響の解明	福沢 公二	循環器内科学分野不整脈先端治療学部門	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
血管内皮接着因子、JCADによるプラーク不安定化機序の解明ー血管新生に注目してー	川合 宏哉	循環器内科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
免疫寛容誘導による新規動脈硬化予防法の開発	山下 智也	循環器内科	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
プロテオーム解析によるレタス誘発性喘息の原因抗原の同定	上領 博	呼吸器内科学	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
高密度表面筋電図・筋超音波同時記録システムによる筋萎縮性側索硬化症の診断法開発	関口 兼司	脳神経内科学	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
脂肪細胞のエネルギー代謝を規定する脂肪滴形態とミトコンドリア量の制御機構の解明	田守 義和	健康創造推進学	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
膵β細胞保護におけるEpac2A/Rap1シグナルの役割とその機序の解明	高橋 晴美	分子代謝医学部門	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
エクソーム解析とiPS細胞を用いた受容体後障害によるインスリン抵抗症遺伝子の同定	廣田 勇士	糖尿病・内分泌内科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
膵β細胞グルタミン酸シグナルの生理学的・病態生理学的役割の解明	艾尼 吾甫尔江	細胞生理学	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
血糖降下薬がmTORC1調節を介して糖尿病発症抑制効果を示す可能性に関する検討	木村 真希	総合臨床教育センター	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
骨髄由来抑制細胞の炎症における役割の解明と新規免疫抑制療法開発	森信 暁雄	腎臓・免疫内科学分野学免疫内科学部門	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
マイクロRNAの関節リウマチ関連標的分子に関する研究	河野 誠司	総合臨床教育センター	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
色素性乾皮症マウスを用いた紫外線発がん抑制因子の探索ー炎症反応をコントロールする	国定 充	皮膚科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
美白剤の色素細胞障害性における酸化ストレスの関与	錦織 千佳子	皮膚科学	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
ロボット支援腎部分切除術の基準解剖自動認識と腎機能予後判定一体評価システムの構築	高橋 哲	放射線医学, 放射線科	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
VX2肝腫瘍モデルにおける炭酸ガス併用選択的動注化学療法の効果の検討	山口 雅人	放射線医学, 放射線科	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構

1 研究費補助等の実績

MRIベース小線源治療におけるADC値の4次元解析ソフトウェア開発と有用性の検討	吉田 賢史	放射線腫瘍科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
腫瘍ターゲティング能を有した過酸化チタンナノ粒子による放射線増感治療の基礎研究	中山 雅央	放射線腫瘍学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
新規マグネシウム合金を用いた自動縫合器に搭載可能な吸収性ステーブルの研究開発	福本 巧	肝胆膵外科学	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
同種異系反応に伴う免疫活性化機構の解明と新規標的分子の同定	山下 公大	食道胃腸外科	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
間葉系幹細胞を利用した膝液療発症予防・難治性膝液療治療法の確立	浅利 貞毅	肝胆膵外科学	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
位相差X線CTと免疫染色法を用いたヒト動脈管組織の微細構造と機能解析	大嶋 義博	心臓血管外科	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
糖化および酸化ストレス抑制による肩腱板変性断裂の予防	美船 泰	整形外科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
ホウ素中性子捕捉療法への適応を目指した骨軟部腫瘍におけるLAT-1発現の検討	藤本 卓也	整形外科	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
前十字靭帯損傷膝に伴う軟部組織損傷の膝回旋不安定性に及ぼす影響についての調査	星野 祐一	整形外科	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
成人低酸素症に対する100%酸素蘇生による臓器障害発生機序とその治療戦略の確立	植木 正明	災害・救急医学	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
糖尿病合併敗血症患者の急性期血糖降下指数が予後に与える影響の解明	江木 盛時	麻酔科学	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
精子形成におけるrapgef6の機能解析と新しい男性不妊治療の開発	藤澤 正人	腎泌尿器科学	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
サイトカインシグナル阻害分子(SOCS)導入による頭頸部癌に対する遺伝子治療	大月 直樹	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
中心性漿液性脈絡網膜症における感受性遺伝子の同定とその臨床応用	本田 茂	眼科	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
動脈脈管形成における新生血管の分子制御機構 ～病的血管はいかに新生するか?～	野村 正	形成外科	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
皮膚の光シグナル変換機序の解明とその機能の探索	榊原 俊介	形成外科学	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
敗血症における男性予後改善の治療標的としてのIL-18の可能性	小谷 穰治	救命救急センター	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
歯科健診・指導の継続による歯周病と生活習慣病の改善効果	時岡 早苗	歯科口腔外科	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
看護記録の質的点検を自動化する内容監査プログラムの研究開発	菅野 亜紀	医療情報学	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
摂食時間制限による腸内環境変化と消化器系臓器の機能適応	星 奈美子	消化器内科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
がん性疼痛に対する経皮的電気刺激治療の身体・精神機能および医療費抑制効果の検証	井上 順一朗	リハビリテーション部	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
内臓の非対称とその配置の非対称	本多 久夫	細胞生理学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
脳内炎症を惹起する神経細胞由来分子の同定	北岡 志保	薬理学	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
S1Pシグナリングによる癌炎症環境における悪玉エクソソーム成熟機構の解明	梶本 武利	生化学	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
非小細胞肺癌細胞の増悪進展におけるRor1-Rifシグナルの機能	西田 満	細胞生理学	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構

1 研究費補助等の実績

食道扁平上皮癌における癌細胞と腫瘍関連線維芽細胞・マクロファージ相互作用の解析	横崎 宏	病理学	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
分子病理学的手法によるTHSD7A陽性膜性腎症の包括的病態解明	原 重雄	病理診断科	1,950,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
肝炎ウイルスの増殖制御に関わる細胞内アネキシン分子の機能解析	阿部 隆之	感染制御学	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
水痘帯状疱疹ウイルス弱毒生ワクチン弱毒化分子機構の解明	定岡 知彦	臨床ウイルス学	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
免疫チェックポイント阻害薬治療を最適化するためのHLAを含むバイオカー探索	南 博信	腫瘍・血液内科学	1,950,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
腸内細菌へ介入する循環器疾患予防法の開発のための基盤研究	平田 健一	循環器内科学	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
新規HDL機能評価法を用いた糖代謝異常患者に対する急性冠症候群発症阻止の戦略	新家 俊郎	循環器内科	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
虚血再灌流心筋障害の原因となる生理活性脂質メディエーターの解明と治療的介入	篠原 正和	疫学	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
肺腺がんの微小乳頭状構造のオルガノイド培養システムの確立	永野 達也	呼吸器内科学	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
気管支サーマーブラスティの効果予測因子の探索的研究	小林 和幸	医療の質・安全管理部	1,950,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
グルカゴン関連ペプチドの測定法の確立とそれらの病態生理学的意義の解明	南 幸太郎	分子代謝医学部門	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
骨格筋アドレナリン抵抗性が代謝制御に及ぼす影響とその発症メカニズムの解析	野村 和弘	糖尿病・内分泌・総合内科学	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
ヒトIPS細胞を用いた2型糖尿病感受性遺伝子による糖尿病発症機序の解明	浅原 俊一郎	糖尿病・内分泌内科	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
エピジェネティクス機構による造血幹細胞の老化制御メカニズム	仁田 英里子	生体構造解剖学	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
デジタルPCR法による好酸球増多症候群の診断のマルチバイオマーカーの開発	定 明子	血液内科学	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
SMN2遺伝子のイントロン・リテンションを応用した脊髄性筋萎縮症新規治療法の開発	西尾 久英	疫学	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
神経芽腫のがん微小環境制御におけるRab蛋白質の役割に関する研究	西村 範行	小児科学分野こども総合療育学部門	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
新規放射線増感療法としての金属ナノ粒子動注の応用研究	岡田 卓也	放射線部	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
microRNA導入幹細胞による新規放射線増感法の開発	松尾 圭朗	放射線腫瘍学	1,495,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
消化器癌腹膜播種における腹腔内制御性B細胞の解析と化学療法臨床応用	山本 将士	食道胃腸外科学	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
放射光位相差X線CT法と高周波超音波法による大動脈解離の発症前診断に関する研究	築部 卓郎	心臓血管外科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
格子ボルツマン法を用いたMRI単独CFD解析法による脳動脈瘤増大因子の同定	木村 英仁	脳神経外科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
グリオーマの髄腔播種促進因子の同定・機能解析と診断・治療への応用	篠山 隆司	脳神経外科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
IDH変異陽性グリオーマに対するグルタミン代謝を標的とした治療法の開発	田中 一寛	脳神経外科学	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構

1 研究費補助等の実績

磁気共鳴画像支援により受動的誘導可能な機材開発の基礎的研究	藤田 敦史	脳神経外科	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
高磁場術中MRI安静時脳機能ネットワーク解析による脳神経機能温存手術の基礎的研究	甲村 英二	脳神経外科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
骨折治癒に不利な条件下における、炭酸ガス経皮吸収の骨折治癒促進効果の検討	岩倉 崇	整形外科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
骨再生療法への炭酸ガスの応用	新倉 隆宏	整形外科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
転移性骨腫瘍の骨リモデリングに対する炭酸ガス療法の効果について	原 仁美	リハビリテーション部	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
関節リウマチの病態にミトコンドリアが与える影響についての検討	酒井 良忠	リハビリテーション機能回復学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
3Dモデルによる経鼻高流量酸素療法時の咽頭喉頭内気流シミュレーション	三住 拓誉	麻酔科	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
術後せん妄発生機序の解明ー脳脊髄液中トリプトファン代謝物質からの検討	岡田 雅子	麻酔科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
神経栄養因子の発現調節による術後認知機能障害の予防と治療	小幡 典彦	麻酔科	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
尿路上皮癌の再発時に起きるゲノム異常の解析	日向 信之	腎泌尿器科学分野泌尿器先端医療開発学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
生殖不全における制御性B細胞、樹状細胞、NK細胞の役割の解明	出口 雅士	地域医療ネットワーク学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
HLA class II 複合体抗体による不育症、妊娠合併症の新診断・治療法の確立	山田 秀人	産科婦人科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
唾液腺がんにおける免疫チェックポイント分子発現と遺伝子変異の探索	清田 尚臣	腫瘍・血液内科学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
フマル酸ジメチルの抗酸化作用ならびに免疫調節作用を介した神経保護効果	栗本 拓治	眼科	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
糖尿病性足潰瘍を非侵襲的に予防する理学療法処方構築	藤井 美樹	形成外科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
メタボローム解析を用いたARONJに対する新規LED治療の開発	鈴木 泰明	口腔外科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
口腔癌再建症例の筋機能MRI解析	古土井 春吾	口腔外科学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
非侵襲的組織成分診断の為のVirtual CT生検技術の確立	村上 卓道	放射線診断学	390,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
グラウンディングを応用した自動手術記録システムの開発	原田 仁	食道胃腸外科	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
素過程の統合的理解に基づく小胞体ネットワーク形成の全容解明	匂坂 敏朗	膜動態学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
行動経済学に基づいた終末期の医学上の決定に影響を与えるバイアスに関する実験的研究	木澤 義之	緩和支援治療科	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
過酸化ナノチタン粒子の原子設計と新規ラジカル放射線増感療法の開発	佐々木 良平	放射線腫瘍科	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
新しい生体吸収性金属(マグネシウム合金)を用いた吸収性膝関節閉鎖クリップの開発	外山 博近	未来医工学研究開発センター	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
社会挫折ストレスによるミクログリア活性化を担う遺伝子発現制御機構の解明	古屋敷 智之	薬理学	3,510,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
全身免疫異常に伴う神経回路活動の変容に対する治療戦略	和氣 弘明	システム生理学	3,250,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構

1 研究費補助等の実績

ヒト胎児疾患モデルマウスの新規スクリーニング法の確立	平島 正則	血管生物学	3,250,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
臓性一次知覚ニューロンの臓器別カタログ化	榎本 秀樹	神経分化・再生	4,550,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
内分泌器官としての骨髄の評価とその神経支配の解明	片山 義雄	血液内科	3,250,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
下垂体腫瘍オルガノイドを用いたテーラーメイド創薬への挑戦	高橋 裕	糖尿病・内分泌内科	3,250,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
麻薬と鎮静薬は命を縮めるのか？全国データベースと周辺構造モデルを用いた大規模研究	坂下 明大	腫瘍センター	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
細胞間接着複合体に着眼した転移リンパ節内微小リンパ管網の特質性の解明	明石 昌也	口腔外科学	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
EGFR-TKIによる皮膚障害機構の解明と克服	田村 大介	呼吸器内科	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
ALI/ARDSにおけるスフィンゴ脂質シグナル機構の解明	山本 正嗣	呼吸器内科	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
ケミカルプロテオミクスによる新規インスリン分泌増強メカニズムの解明	菅原 健二	糖尿病・内分泌内科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
骨髄由来抑制細胞を利用した自己免疫疾患の新規治療	西村 啓佑	腎臓・免疫内科学	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
レニンアンギオテンシン系に注目した先天性腎尿路奇形の末期腎不全進展機序の解明研究	石森 真吾	小児科学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
男性統合失調症におけるX染色体上CpGアイランドの異常高メチル化の機能解析	大塚 郁夫	精神科神経科	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
自殺者血液・死後脳におけるテロメア長およびミトコンドリアDNAコピー数の解析	白岩 恭一	精神医学	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
膝前十字靭帯再建術後筋力回復促進へのハイドロゲル炭酸ガス療法の有効性	荒木 大輔	整形外科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
心臓大血管手術における溶血関連急性腎障害の予防法の検討	久保田 健太	麻酔科	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
嗅神経細胞の再生医療	福田 有里子	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
口腔癌におけるチタンナノ粒子の有効性に関する研究	寛 康正	臨床研究推進センター	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
癌幹細胞周囲微小環境に着目した転移抑制効果の検討	武田 大介	歯科口腔外科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
口腔腫瘍悪性化および増殖と環境因子との相関-TRPチャネルをめぐって-	榑原 晶子	口腔外科学	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
ヒトヘルペスウイルス6がコードする転写活性化因子IE2の構造および機能解析	西村 光広	臨床ウイルス学	2,210,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
がん遺伝子産物Rasの動的な構造特性を介した機能発現メカニズムの解明	松本 篤幸	分子生物学	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
ネクチン様分子による細胞膜受容体二量体化の阻害機構	慶田城 迅	シグナル統合学分野病態シグナル学部門	2,210,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
患者体位再現性の高精度化を目的としたフレキシブルな位置照合システムの開発	上原 和之	放射線腫瘍学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
過敏性腸症候群における腸管粘膜上皮表層細菌叢と病勢との相関解析	井上 潤	光学医療診療部	1,950,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
次世代シーケンサーを用いたADPKDのTwo-hit theoryの検証。	藤村 順也	小児科学	2,340,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構

1 研究費補助等の実績

患者由来近位尿管細胞を用いたLowe症候群の病態解明および新規治療法の開発	南川 将吾	小児科学	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
SGLT2阻害による非生理的尿糖排泄下の糖代謝制御に関する新規数理モデルの構築	中村 友昭	糖尿病・内分泌内科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
ヒストンメチル基転移酵素遺伝子異常による巨人症の機序の解析	隅田 健太郎	糖尿病・内分泌内科	2,080,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
自己免疫性内分泌機能低下症の病態解明	坂東 弘教	糖尿病・内分泌・総合内科学	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
多発性骨髄腫は交感神経によって制御されるか？	川野 宏樹	血液内科学	2,340,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
TRPC6遺伝子異常によるネフローゼ症候群の発症機序の解明と新規治療法の開発	中西 啓太	小児科学	1,950,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
福山型先天性筋ジストロフィーの重症化因子の探索と治療への応用	長坂 美和子	小児科学	1,950,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
新生児慢性肺疾患に対する胎児付属物由来Muse細胞を用いた新治療の開発	山名 啓司	小児科学	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
悪性黒色腫のエピゲノム解析および免疫治療におけるバイオマーカーの検討	藤原 進	皮膚科学	2,990,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
ミズプロストールによる食物アレルギー、アスピリン蕁麻疹の症状誘発抑制の検討	小倉 香奈子	皮膚科学	2,210,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
生体吸収性金属を用いたアーティファクトフリー画像誘導放射線治療マーカーの開発	王 天縁	放射線腫瘍科	2,210,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
Geant4を用いた体内病変線量の同定法開発	赤坂 浩亮	放射線腫瘍科	2,080,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
肝動脈塞栓療法後の腫瘍新生/進展効果の評価および抑制方法の探索	上嶋 英介	放射線医学, 放射線科	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
メタルナノ粒子を導入した幹細胞による新規放射線増感療法の基礎的検討	原田 文	放射線腫瘍学	2,080,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
進行食道癌患者におけるリンパ球マイクロクラスター形成を用いた免疫疲弊機構の解明	田中 智子	薬剤部麻薬室	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
胃癌腹膜播種に対する抗腫瘍免疫応答の解明	有本 聡	食道胃腸外科	2,080,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
RNA結合蛋白QKI5による大腸癌幹細胞の新規エピジェネティック制御機構の解明	向山 順子	食道胃腸外科学	2,080,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
アミノ酸代謝リモデリング分子をターゲットとした新たな膠芽腫治療の開発	中溝 聡	脳神経外科学	1,950,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
甲状腺の結節性病変に対する細胞診による分子生物学的診断法の開発	手島 直則	耳鼻咽喉・頭頸部外科	260,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
マクロファージを標的とした口腔前癌病変の新規治療法・病理診断法の開発	重岡 学	病理学	2,080,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
血漿メタボローム解析による口腔がん術後再発・転移診断法の確立	木本 明	口腔外科学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
粒子線照射による心臓の電気生理学的変化と不整脈治療への応用	高見 充	循環器内科	2,340,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
哺乳類細胞におけるペルオキシソームde novo合成の解析	杉浦 歩	シグナル統合学分野病態シグナル学部門	2,210,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
椎間板の変性に関連する腰痛性疾患の病態の解明と、低侵襲治療システムの開発	西田 康太郎	整形外科	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
精神疾患に関わるストレスによる前頭前皮質の機能形態変化のメカニズムと意義の解明	古屋敷 智之	薬理学	5,070,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構

1 研究費補助等の実績

組織損傷修復、炎症および癌の進展におけるWnt5a-Rorシグナルの分子機構解析	南 康博	細胞生理学	5,070,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
スピリチュアルケアを取り入れたアドバンス・ケア・プランニングの有効性の検証	木澤 義之	緩和支援治療科	5,330,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
新たながんプロファイリング診断としての超臨界流体質量分析システムの検証	吉田 優	病因病態解析学	5,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
疾患特異的iPS細胞を用いた先天性下垂体形成不全の病態解明	高橋 裕	糖尿病・内分泌内科	4,940,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
福山型筋ジストロフィーと類縁疾患の分子病態解明と治療法開発	小林 千浩	分子脳科学	3,380,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
AD/HDのiPS細胞を用いた生物モデルの解析	曾良 一郎	精神医学	4,940,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
次世代・圧縮型スベーターを用いた超低侵襲・空間可変放射線治療の開発	佐々木 良平	放射線腫瘍科	6,110,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
低酸素免疫応答の解明と免疫システムを用いた集学的治療への展開	掛地 吉弘	食道胃腸外科学	3,900,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
増殖制限型アデノウイルスベクターを用いた頭頸部癌に対する新たな治療法の開発	丹生 健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	5,070,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
癌抑制遺伝子の個体における機能と制御	鈴木 聡	分子細胞生物学	10,140,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
福山型筋ジストロフィーおよび新規リポトルリン酸異常症の治療薬開発と分子病態解明	戸田 達史	分子脳科学	14,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
腸管神経前駆細胞における網状細胞移動の分子機構解明	榎本 秀樹	神経分化・再生	6,760,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
パーキンソン病の包括的ゲノム解析による遺伝背景解明と応用	佐竹 渉	神経内科学	4,680,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
アルポート症候群の重症化に関する遺伝子の同定と重症化機序の解明	飯島 一誠	小児科学	4,810,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
ストレス・うつ・自殺一負のスパイラルを結ぶ分子機構の解明	菱本 明豊	精神医学	4,290,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
人工癌幹細胞技術を用いた肺腺癌浸潤部位形成のメカニズムとその制御法の研究	眞庭 謙昌	呼吸器外科学	5,720,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
ストレス抵抗性を司る神経回路の同定と内側前頭前皮質神経細胞形態変化の役割	古屋敷 智之	薬理学	3,510,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
腸管神経系の組織恒常性維持機構の解明	上坂 敏弘	神経分化・再生	3,120,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
オリゴデンドロサイトの制御による神経科回路活動の精緻化	和氣 弘明	システム生理学	5,590,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
宿主・ウイルス間ヘテロトランススプライシング遺伝子発現制御による共生機構の解明	定岡 知彦	臨床ウイルス学	3,250,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
ストレス抵抗性を司る内側前頭前皮質の神経突起制御因子の役割と生活習慣との関連性	古屋敷 智之	薬理学	4,550,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
ジストログリカノパチーに対するLARGE遺伝子治療	大塚 喜久	神経内科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
Hippoシグナル経路による細胞競合機構とその破綻病態	鈴木 聡	分子細胞生物学	33,150,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
上皮細胞の競合に関与する細胞間接着分子の同定と作用機構の解明	高井 義美	シグナル統合学分野病態シグナル学部門	20,280,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
膝前十字靭帯損傷に合併した半月板損傷に対する手術治療の回旋不安定性改善効果の検討	星野 祐一	整形外科	15,210,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構

1 研究費補助等の実績

放射線性顎骨壊死の病態と発症リスク因子の解明に関する多施設共同研究	長谷川 巧実	歯科口腔外科	91,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
AI支援型がん患者の意思決定構造解析を基盤とした情報提供システムの開発	木澤 義之	緩和支持治療科	260,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
輸入・新興感染症から医療従事者を守れ！臨床現場ガイドライン策定のための防護具研究	荒川 創一	感染制御部	195,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
看護師と医師が協働するケア・キュー融合型症状マネジメントモデルの開発	木澤 義之	緩和支持治療科	390,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
SMN2遺伝子のイントロン・リテンションを応用した脊髄性筋萎縮症新規治療法の開発	篠原 正和	疫学	130,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
位相差X線CT解析から視えた非破壊ヒト刺激伝導系構造の社会還元システムの構築	松久 弘典	心臓血管外科学	39,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
位相差X線CT解析から視えた非破壊ヒト刺激伝導系構造の社会還元システムの構築	大嶋 義博	心臓血管外科	39,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
肺・肝以外の諸臓器における定位放射線治療の効果と安全性の評価	馬屋原 博	放射線腫瘍科	130,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
皮膚付属器を有する革新的三次元皮膚評価モデル、バイオスキンの開発	寺師 浩人	形成外科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
皮膚付属器を有する革新的三次元皮膚評価モデル、バイオスキンの開発	榊原 俊介	形成外科学	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
ヒトiPS細胞由来間葉系幹細胞を用いた骨再生療法の確立	福井 友章	整形外科	390,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
ヒトiPS細胞由来間葉系幹細胞を用いた骨再生療法の確立	新倉 隆宏	整形外科	390,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
ビッグデータを用いた非がん終末期の医療と療養場所に関する疫学研究	坂下 明大	腫瘍センター	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
照射放射線質の違いによるがん転移能への影響に関するデータベース作成	沖本 智昭	放射線腫瘍科	195,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
照射放射線質の違いによるがん転移能への影響に関するデータベース作成	出水 祐介	放射線腫瘍科	195,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
工学的解析に基づく神経筋クロストークを介した筋の運動適応機序の解明	金川 基	分子脳科学分野分子脳科学部門	130,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
多階層工学的解析に基づくメカニカルストレスを利用した心機能維持の分子基盤の解明	金川 基	分子脳科学分野分子脳科学部門	260,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
患者・家族と創る日本版アドバンス・ケア・プランニング～人生最終段階の幸せを支える	木澤 義之	緩和支持治療科	130,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
個別化治療を見据えた唾液腺癌の分子病理学的解析:大規模多施設共同研究	丹生 健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	130,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
放射線性多発性骨壊死の発生機序の解明と予防法に関する多施設共同ランダム化比較試験	長谷川 巧実	歯科口腔外科	65,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
がん幹細胞化に関与するSphere形成メカニズムを標的とした革新的治療開発	掛地 吉弘	食道胃腸外科学	390,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
子ども-環境相互作用に注目した社会的養護の基礎的・実践的研究	田中 究	精神医学, 精神科神経科	130,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
骨軟部腫瘍における診断マーカーの同定と腫瘍概念の再構築を目指した融合遺伝子の探索	河本 旭哉	国際がん医療・研究推進学先進的がん医	195,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構
骨代謝共役を担うクラスタイン-Wntシグナルネットワークの解明	南 康博	細胞生理学	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興機構

1 研究費補助等の実績

ストレス喘息の病態発症におけるオピオイド受容体遺伝子多型-内分泌-免疫応答の解析	曾良 一郎	精神医学	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
放射線シミュレータの革新	山下 智弘	放射線腫瘍学	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
糖鎖およびリン酸修飾の基盤となる選別輸送ゾーンの分子機構と生理機能の解析	金川 基	分子脳科学分野分子 脳科学部門	5,200,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
地域連携クリティカルパスを用いた標準的癌診療工程プロセスとその最適化	小林 大介	医療システム学医療 経済・病院経営学部	260,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
口腔癌頸部リンパ節転移被膜外浸潤進展度分類と進展メカニズムの分子細胞生物学的研究	長谷川 巧実	歯科口腔外科	39,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
骨転移を有する長期生存がん患者・悪性骨腫瘍患者の身体活動量維持プログラムの開発	酒井 良忠	リハビリテーション機 能回復学	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
僧帽弁狭窄に対するステントレス僧帽弁置換術の安全性と有効性の評価:多施設共同研究	大北 裕	心臓血管外科	13,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
親のがん発症に起因する親子関係の再構築に向けた支援策の開発	早川 晶	小児科学	540,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
終末期の鎮静の生命倫理的・医学的位置づけに関する東アジア大規模研究	木澤 義之	緩和支援治療科	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
高齢者の終末期の緩和できない苦痛と尊厳死・安楽死の希望に関する国際共同研究	木澤 義之	緩和支援治療科	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
看護記録の質的点検を自動化する内容監査プログラムの研究開発	高岡 裕	医療情報部	756,703	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
高速三次元計測と局所場光摂動による自在な細胞機能編集技術の開発	和氣 弘明	システム生理学	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
中心性漿液性脈絡網膜症における感受性遺伝子の同定とその臨床応用	三木 明子	眼科学	65,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
細胞競合:細胞社会を支える適者生存システム	鈴木 聡	分子細胞生物学	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
次世代の細胞競合研究者養成のための「細胞競合国際ネットワーク」構築	鈴木 聡	分子細胞生物学	2,184,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
細胞競合:細胞社会を支える適者生存システム	高井 義美	シグナル統合学分野 病態シグナル学部門	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
マルチスケール精神病態の構成的理解(総括班)	古屋敷 智之	薬理学	2,600,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
福山型筋ジストロフィーおよび新規リポールリン酸異常症の治療薬開発と分子病態解明	小林 千浩	分子脳科学	6,240,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
肺がん患者における術中麻酔薬による免疫抑制メカニズムの機序解明と予後への影響	井上 茂亮	災害・救急医学分野 先進救命救急医学部 門	65,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
遺伝性膀胱炎患者由来iPS細胞を用いたヒト膀胱細胞モデルの構築と創薬への応用	児玉 裕三	消化器内科学	65,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
人工知能を応用したわが国における個別化乳癌検診の実践	村上 卓道	放射線診断学	390,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
放射線脳壊死関連マクロファージに発現する免疫制御分子B7ファミリーの意義の解明	山下 公大	食道胃腸外科	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
アミノ酸イメージングと癌シグナル伝達因子による脳腫瘍患者の予後予測マーカーの解明	村上 卓道	放射線診断学	13,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構
ヨード密度CT画像を用いた肝線維化の評価法の開発	村上 卓道	放射線診断学	65,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構

1 研究費補助等の実績

ヨード密度CT画像を用いた肝線維化の評価法の開発	祖父江 慶太郎	IVRセンター	65,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構	小計 2 合計 436
行動の構造:比較認知神経科学によるアプローチ	橘 吉寿	システム生理学	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興 機構	

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kawamoto S, Kamesaki T, Masutani R, et al.	輸血・細胞治療部	Ectopic expression of band 3 anion transport protein in colorectal cancer revealed in an autoimmune hemolytic anemia patient	Hum Pathol. 2019 Jan; 83: 193-198	Original Article
2	Kawamoto S, Masutani R, Kurata K, et al.	輸血・細胞治療部	Toll-like receptor 4 promoter polymorphisms in a familial mediterranean fever patient with asymptomatic bacteriuria	Clin Case Rep. 2018 Nov 25; 7(1): 155-159	Original Article
3	Takemori T, Kawamoto T, Ueha T, et al.	リハビリテーション部	Transcutaneous carbon dioxide application suppresses bone destruction caused by breast cancer metastasis	Oncol Rep. 2018 Oct; 40(4): 2079-2087	Original Article
4	Takashi Toyonaga, Yoshiko Ohara, Shinichi Baba, et al.	光学医療診療部	Peranal endoscopic myectomy (PAEM) for rectal lesions with severe fibrosis and exhibiting the muscle-retracting sign	Endoscopy. 2018 Aug; 50(8): 813-817	Original Article
5	Tanaka S, Toyonaga T, Kawara F, et al.	光学医療診療部	A case of Jackhammer esophagus caused by eosinophilic esophagitis in which per-oral endoscopic myotomy resulted in symptom improvement	Clin J Gastroenterol. 2018 Oct; 11(5): 377-381	Original Article
6	Tokimatsu I, Shigemura K, Osawa K, et al.	感染制御部	Molecular epidemiologic study of Clostridium difficile infections in university hospitals: Results of a nationwide study in Japan	J Infect Chemother. 2018 Aug;24(8):641-647	Original Article
7	Osawa K, Shigemura K, Kitagawa K, et al.	感染制御部	Risk factors for death from Stenotrophomonas maltophilia bacteremia	J Infect Chemother. 2018 Aug;24(8):632-636	Original Article
8	Kusuki M, Osawa K, Arikawa K, et al.	感染制御部	Determination of the antimicrobial susceptibility and molecular profile of clarithromycin resistance in the Mycobacterium abscessus complex in Japan by variable number tandem repeat analysis	Diagn Microbiol Infect Dis. 2018 Jul;91(3):256-259	Original Article

小計 8 件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

9	Sakashita A, Shutoh M, Sekine R, et al.	腫瘍センター	Development of a Consensus Syllabus of Palliative Medicine for Physicians in Japan Using a Modified Delphi Method	Indian J Palliat Care. 2019 Jan-Mar; 25(1): 30-40	Original Article
10	Sofue K, Itoh T, Takahashi S, et al.	IVRセンター	Quantification of Cisplatin Using a Modified 3-Material Decomposition Algorithm at Third-Generation Dual-Source Dual-Energy Computed Tomography: An Experimental Study	Invest Radiol. 2018 Nov; 53(11): 673-680	Original Article
11	Sofue K, Tsurusaki M, Mileto A, et al.	IVRセンター	Dual-energy computed tomography for non-invasive staging of liver fibrosis: Accuracy of iodine density measurements from contrast-enhanced data	Hepatol Res. 2018 Nov; 48(12): 1008-1019	Original Article
12	Omura T, Matsuda H, Nomura L, et al.	薬剤部	Ubiquitin ligase HMG-CoA reductase degradation 1 (HRD1) prevents cell death in a cellular model of Parkinson's disease	Biochem Biophys Res Commun. 2018 Nov 30; 506(3): 516-521	Original Article
13	Ito T, Yamamoto K, Ohsawa F, et al.	薬剤部	Association of CYP2D6 polymorphisms and extrapyramidal symptoms in schizophrenia patients receiving risperidone: a retrospective study	J Pharm Health Care Sci. 2018 Nov 19; 4: 28-28	Original Article
14	Yamamoto K, Hara T, Nakagawa T, et al.	薬剤部	Association of Expression Levels or Activation Status of STAT3 with Treatment Outcomes of Sunitinib in Patients with Renal Cell Carcinoma	Target Oncol. 2018 Jun; 13(3): 371-378	Original Article
15	Omura T, Sasaoka M, Hashimoto G, et al.	薬剤部	Oxicam-derived non-steroidal anti-inflammatory drugs suppress 1-methyl-4-phenyl pyridinium-induced cell death via repression of endoplasmic reticulum stress response and mitochondrial dysfunction in SH-SY5Y cells	Biochem Biophys Res Commun. 2018 Sep 18; 503(4): 2963-2969	Original Article
16	Kimura T, Uda A, Sakaue T, et al.	薬剤部	Long-term efficacy of comprehensive multidisciplinary antibiotic stewardship programs centered on weekly prospective audit and feedback	Infection. 2018 Apr; 46(2): 215-224	Original Article

小計 8 件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

17	Watanabe D, Toyonaga T, Ooi M, et al.	消化器内科	Clinical outcomes of deep invasive submucosal colorectal cancer after ESD	Surg Endosc. 2018 Apr; 32(4): 2123-2130	Original Article
18	Sakai A, Tsujiamae M, Masuda A, et al.	消化器内科	Clinical outcomes of ampullary neoplasms in resected margin positive or uncertain cases after endoscopic papillectomy	World J Gastroenterol. 2019 Mar 21; 25(11): 1387-1397	Original Article
19	Nishiumi S, Fujigaki S, Kobayashi T, et al.	消化器内科	Metabolomics-based Discovery of Serum Biomarkers to Predict the Side-effects of Neoadjuvant Chemoradiotherapy for Esophageal Squamous Cell Carcinoma	Anticancer Res. 2019 Jan; 39(1): 519-526	Original Article
20	Iemoto T, Nishiumi S, Kobayashi T, et al.	消化器内科	Serum level of octanoic acid predicts the efficacy of chemotherapy for colorectal cancer	Oncol Lett. 2019 Jan; 17(1): 831-842	Original Article
21	Seehawong U, Morita Y, Nakano Y, et al.	消化器内科	Successful treatment of an esophageal perforation that occurred during endoscopic submucosal dissection for esophageal cancer using polyglycolic acid sheets and fibrin glue	Clin J Gastroenterol. 2019 Feb; 12(1): 29-33	Original Article
22	Watanabe D, Tanaka S, Ariyoshi R, et al.	消化器内科	Muscle layer thickness affects the peroral endoscopic myotomy procedure complexity	Dis Esophagus. 2018 Jul 1; 31(7)	Original Article
23	Nakagawa T, Kobayashi T, Nishiumi S, et al.	消化器内科	Metabolome analysis for pancreatic cancer risk in nested case-control study: Japan Public Health Center-based prospective Study	Cancer Sci. 2018 May; 109(5): 1672-1681	Original Article
24	Takao T, Masumura R, Sakauchi S, et al.	消化器内科	New report preparation system for endoscopic procedures using speech recognition technology	Endosc Int Open. 2018 Jun;6(6):E676-E687	Original Article
25	Uzu K, Otake H, Choi G, et al.	循環器内科	Lumen boundaries extracted from coronary computed tomography angiography on computed fractional flow reserve (FFRCT): validation with optical coherence tomography	EuroIntervention. 2019 Feb 8; 14(15): e1609- e1618	Original Article

小計 9 件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

26	Konishi A, Iwasaki M, Shinke T, et al.	循環器内科	Favorable early vessel healing after everolimus-eluting stent implantation: 3-, 6-, and 12-month follow-up of optical coherence tomography	J Cardiol. 2018 Sep; 72(3): 193-199	Original Article
27	Soga F, Tanaka H, Tatsumi K, et al.	循環器内科	Impact of dapagliflozin on left ventricular diastolic function of patients with type 2 diabetic mellitus with chronic heart failure	Cardiovasc Diabetol. 2018 Oct 8; 17(1): 132-132	Original Article
28	Shinkura Y, Nakayama K, Yanaka K, et al.	循環器内科	Extensive revascularisation by balloon pulmonary angioplasty for chronic thromboembolic pulmonary hypertension beyond haemodynamic normalisation	EuroIntervention. 2018 Apr 20; 13(17): 2060-2068	Original Article
29	Yanaka K, Nakayama K, Shinke T, et al.	循環器内科	Sequential Hybrid Therapy With Pulmonary Endarterectomy and Additional Balloon Pulmonary Angioplasty for Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension	J Am Heart Assoc. 2018 Jun 21; 7(13)	Original Article
30	Tamada N, Nakayama K, Yanaka K, et al.	循環器内科	Early Introduction of Pulmonary Endarterectomy or Balloon Pulmonary Angioplasty Contributes to Better Health-Related Quality of Life in Patients With Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension	JACC Cardiovasc Interv. 2018 Jun 11; 11(11): 1114-1116	Original Article
31	Yamamoto H, Otake H, Akagi T, et al.	循環器内科	Acute Aortic Dissection as a Rare Complication of Percutaneous Closure Using the Amplatzer Vascular Plug II for a Tubular and Enlarged Patent Ductus Arteriosus in an Elderly Patient	JACC Cardiovasc Interv. 2019 Jan 14; 12(1): e5-e7	Original Article
32	Sano H, Tanaka H, Motoji Y, et al.	循環器内科	Echocardiography during preload stress for evaluation of right ventricular contractile reserve and exercise capacity in pulmonary hypertension	Echocardiography. 2018 Dec; 35(12): 1997-2004	Original Article
33	Nakayama K, Emoto N, Tamada N, et al.	循環器内科	The optimization of iloprost inhalation under moderate flow of oxygen therapy in severe pulmonary arterial hypertension	Pulm Circ. 2018 Oct-Dec; 8(4): 2045894018781537-2045894018781537	Original Article

小計 8 件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

34	Otake H, Sugizaki Y, Toba T, et al.	循環器内科	Efficacy of alirocumab for reducing plaque vulnerability: Study protocol for ALTAIR, a randomized controlled trial in Japanese patients with coronary artery disease receiving rosuvastatin	J Cardiol. 2019 Mar; 73(3): 228-232	Original Article
35	Mori S, Tretter JT, Toba T, et al.	循環器内科	Relationship between the membranous septum and the virtual basal ring of the aortic root in candidates for transcatheter implantation of the aortic valve	Clin Anat. 2018 May; 31(4): 525-534	Original Article
36	Taniguchi Y, Brenot P, Jais X, et al.	循環器内科	Poor Subpleural Perfusion Predicts Failure After Balloon Pulmonary Angioplasty for Nonoperable Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension	Chest. 2018 Sep; 154(3): 521-531	Original Article
37	Konishi H, Fukuzawa K, Mori S, et al.	循環器内科	The limitations and potential adverse effects of the premature ventricular contraction response	J Arrhythm. 2018 Jun 22; 34(5): 572-575	Original Article
38	Toh H, Mori S, Shimoyama S, et al.	循環器内科	Optimal reconstruction of left ventricular outflow tract obstruction before surgical myectomy in a case with hypertrophic obstructive cardiomyopathy	Echocardiography. 2018 Apr; 35(4): 537-540	Original Article
39	Tsukiyama Y, Kozuki A, Shinke T, et al.	循環器内科	Potent effect of prasugrel on acute phase resolution of intra-stent atherothrombotic burden after percutaneous intervention to acute coronary syndrome	J Cardiol. 2018 Nov; 72(5): 403-410	Original Article
40	Hayashi H, Kurata T, Takiguchi Y, et al.	腫瘍・血液内科	Randomized Phase II Trial Comparing Site-Specific Treatment Based on Gene Expression Profiling With Carboplatin and Paclitaxel for Patients With Cancer of Unknown Primary Site	J Clin Oncol. 2019 Mar 1; 37(7): 570-579	Original Article
41	Kurata K, Yakushijin K, Mizuno I, et al.	腫瘍・血液内科	Early lymphocyte recovery predicts clinical outcome after HSCT with mycophenolate mofetil prophylaxis in the Japanese population	Int J Hematol. 2018 Jul; 108(1): 58-65	Original Article
42	Kurata K, Yakushijin K, Okamura A, et al.	腫瘍・血液内科	Pharmacokinetics of intravenous mycophenolate mofetil in allogeneic hematopoietic stem cell-transplanted Japanese patients	Cancer Chemother Pharmacol. 2018 May; 81(5): 839-846	Original Article

小計 9 件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

43	Nishimura M, Hayashi M, Mizutani Y, et al.	腫瘍・血液内科	Distribution of erlotinib in rash and normal skin in cancer patients receiving erlotinib visualized by matrix assisted laser desorption/ionization mass spectrometry imaging	Oncotarget. 2018 Apr 6; 9(26): 18540–18547	Original Article
44	Takahashi S, Kiyota N, Yamazaki T, et al.	腫瘍・血液内科	A Phase II study of the safety and efficacy of lenvatinib in patients with advanced thyroid cancer	Future Oncol. 2019 Mar; 15(7): 717–726	Original Article
45	Toyoda M, Watanabe K, Amagasaki T, et al.	腫瘍・血液内科	A phase I study of single-agent BEZ235 special delivery system sachet in Japanese patients with advanced solid tumors	Cancer Chemother Pharmacol. 2019 Feb; 83(2): 289–299	Original Article
46	Yamamura T, Nozu K, Ueda H, et al.	小児科	Functional splicing analysis in an infantile case of atypical hemolytic uremic syndrome caused by digenic mutations in C3 and MCP genes	J Hum Genet. 2018 Jun; 63(6): 755–759	Original Article
47	Uemura S, Mori T, Nagano C, et al.	小児科	Effective response to azacitidine in a child with a second relapse of myeloid leukemia associated with Down syndrome after bone marrow transplantation	Pediatr Blood Cancer. 2018 Dec; 65(12): e27414–e27414	Original Article
48	Matsunoshita N, Nozu K, Yoshikane M, et al.	小児科	Congenital chloride diarrhea needs to be distinguished from Bartter and Gitelman syndrome	J Hum Genet. 2018 Jul; 63(8): 887–892	Original Article
49	Hamaguchi T, Hirota Y, Takeuchi T, et al.	小児科	Treatment of a case of severe insulin resistance as a result of a PIK3R1 mutation with a sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor	J Diabetes Investig. 2018 Sep; 9(5): 1224–1227	Original Article
50	Nakanishi K, Kaito H, Ogi M, et al.	小児科	Three Severe Cases of Viral Infections with Post-Kidney Transplantation Successfully Confirmed by Polymerase Chain Reaction and Flow Cytometry	Case Rep Nephrol Dial. 2018 Sep 25; 8(3): 198–206	Original Article
51	Horinouchi T, Nozu K, Yamamura T, et al.	小児科	Detection of Splicing Abnormalities and Genotype-Phenotype Correlation in X-linked Alport Syndrome	J Am Soc Nephrol. 2018 Aug; 29(8): 2244–2254	Original Article

小計 9 件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

52	Harahap NIF, Niba ETE, Rochmah AR M, et al.	小児科	Intron-retained transcripts of the spinal muscular atrophy genes, SMN1 and SMN2	Brain Dev. 2018 Sep; 40(8): 670-677	Original Article
53	Fujimura J, Nozu K, Yamamura T, et al.	小児科	Clinical and Genetic Characteristics in Patients With Gitelman Syndrome	Kidney Int Rep. 2018 Sep 28; 4(1): 119-125	Original Article
54	Sakakibara N, Morisada N, Nozu K, et al.	小児科	Clinical spectrum of male patients with OFD1 mutations	J Hum Genet. 2019 Jan; 64(1): 3-9	Original Article
55	Shohei Ohyama, Ichiro Morioka, Sachiyo Fukushima,	小児科	Efficacy of Valganciclovir Treatment Depends on the Severity of Hearing Dysfunction in Symptomatic Infants with Congenital Cytomegalovirus Infection	Int J Mol Sci. 2019 Mar 19; 20(6)	Original Article
56	Unzaki A, Morisada N, Nozu K, et al.	小児科	Clinically diverse phenotypes and genotypes of patients with branchio- oto-renal syndrome	J Hum Genet. 2018 May; 63(5): 647-656	Original Article
57	Horinouchi T, Sako M, Nakanishi K, et al.	小児科	Study protocol: mycophenolate mofetil as maintenance therapy after rituximab treatment for childhood-onset, complicated, frequently- relapsing nephrotic syndrome or steroid- dependent nephrotic syndrome: a multicenter double-blind, randomized, placebo-controlled trial (JSKDC07)	BMC Nephrol. 2018 Nov 1; 19(1): 302-302	Original Article
58	Taniguchi- Ikeda M, Morisada N, Inagaki H, et al.	小児科	Two patients with PNKP mutations presenting with microcephaly, seizure, and oculomotor apraxia	Clin Genet. 2018 Apr; 93(4): 931-933	Original Article
59	Uemura S, Nishimura N, Hasegawa D, et al.	小児科	ETV6-ABL1 fusion combined with monosomy 7 in childhood B-precursor acute lymphoblastic leukemia	Int J Hematol. 2018 May; 107: 604-609	Original Article

小計 8 件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

60	Ohno Y, Kishida Y, Seki S, et al.	放射線診断・IVR科	Amide proton transfer-weighted imaging to differentiate malignant from benign pulmonary lesions: Comparison with diffusion-weighted imaging and FDG-PET/CT	J Magn Reson Imaging. 2018 Apr; 47(4): 1013-1021	Original Article
61	Ohno Y, Yui M, Chen Y, et al.	放射線診断・IVR科	Gadolinium-Based Blood Volume Mapping From MRI With Ultrashort TE Versus CT and SPECT for Predicting Postoperative Lung Function in Patients With Non-Small Cell Lung Cancer	AJR Am J Roentgenol. 2019 Jan; 212(1): 57-66	Original Article
62	Ohno Y, Yui M, Aoyagi K, et al.	放射線診断・IVR科	Whole-Body MRI: Comparison of Its Capability for TNM Staging of Malignant Pleural Mesothelioma With That of Coregistered PET/MRI, Integrated FDG PET/CT, and Conventional Imaging	AJR Am J Roentgenol. 2019 Feb; 212(2): 311-319	Original Article
63	Ueno YR, Tamada T, Takahashi S, et al.	放射線診断・IVR科	Computed Diffusion-Weighted Imaging in Prostate Cancer: Basics, Advantages, Cautions, and Future Prospects	Korean J Radiol. 2018 Sep-Oct; 19(5): 832-837	Original Article
64	Kishida Y, Seki S, Yoshikawa T, et al.	放射線診断・IVR科	Performance Comparison Between 18F-FDG PET/CT Plus Brain MRI and Conventional Staging Plus Brain MRI in Staging of Small Cell Lung Carcinoma	AJR Am J Roentgenol. 2018 Jul; 211(1): 185-192	Original Article
65	Yutaka Takaoka, Aki Sugano, Kenji Miura, et al.	皮膚科	In silico drug repositioning for treatment of xeroderma pigmentosum group D	HPCI RESEARCH REPORT. 2018 Sep ; 3(2): 39-45	Original Article
66	Masaki T, Tsujimoto M, Kitazawa R, et al.	皮膚科	Autopsy findings and clinical features of a mild-type xeroderma pigmentosum complementation group A sibs: 40 years of follow-up	JAAD Case Rep. 2019 Feb 12;5(3):205-208	Original Article
67	Masaki T, Nakano E, Okamura K, et al.	皮膚科	A case of xeroderma pigmentosum complementation group C with diverse clinical features	Br J Dermatol. 2018 Jun; 178(6): 1451-1452	Original Article
68	Jimbo H, Fujiwara S, Nagai H, et al.	皮膚科	Case of histiocytosis with bone involvement of fingers successfully treated with peginterferon- $\alpha$	J Dermatol. 2019 Mar;46(3):e94-e95	Original Article

小計 9 件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

69	Fujiwara S, Nagai H, Jimbo H, et al.	皮膚科	Gene Expression and Methylation Analysis in Melanomas and Melanocytes From the Same Patient: Loss of NPM2 Expression Is a Potential Immunohistochemical Marker for Melanoma	Front Oncol. 2019 Jan 21; 8: 675-675	Original Article
70	Kunisada M, Yamano N, Hosaka C, et al.	皮膚科	Inflammation Due to Voriconazole-induced Photosensitivity Enhanced Skin Phototumorigenesis in Xpa-knockout Mice	Photochem Photobiol. 2018 Sep; 94(5): 1077-1081	Original Article
71	SHINICHI SO, SHOHEI KOMATSU, ATSUSHI TAKEBE, et al.	肝胆膵外科	Novel Extracorporeal Hemoperfusion System for Hepatic Arterial Infusion of Cisplatin	Anticancer Res. 2018 Nov; 38(11): 6445-6452	Original Article
72	Yamada H, Tanimura K, Tairaku S, et al.	産科婦人科	Clinical factor associated with congenital cytomegalovirus infection in pregnant women with non-primary infection	J Infect Chemother. 2018 Sep; 24(9): 702-706	Original Article
73	Nagamata S, Nagasaka M, Kawabata A, et al.	産科婦人科	Human CD134 (OX40) expressed on T cells plays a key role for human herpesvirus 6B replication after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	J Clin Virol. 2018 May; 102: 50-55	Original Article
74	Tanimura K, Morizane M, Deguchi M, et al.	産科婦人科	A novel scoring system for predicting adherent placenta in women with placenta previa	Placenta. 2018 Apr; 64: 27-33	Original Article
75	Ikuta T, Fujioka K, Sato Y, et al.	産科婦人科	A Case of Congenital Complete Atrioventricular Block Treated with Transdermal Tulobuterol	Kobe J Med Sci. 2018 Apr 19; 63(4): E109-E112	Original Article
76	Wakahashi S, Kawakami F, Wakahashi K, et al.	産科婦人科	Transformed Follicular Lymphoma (TFL) Predicts Outcome in Advanced Endometrial Cancer	Cancer Epidemiol Biomarkers Prev. 2018 Aug; 27(8): 963-969	Original Article
77	Tanaka K, Teishima J, Takenaka A, et al.	泌尿器科	Prospective study of robotic partial nephrectomy for renal cancer in Japan: Comparison with a historical control undergoing laparoscopic partial nephrectomy	Int J Urol. 2018 May; 25(5): 472-478	Original Article

小計 9 件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

78	Yokoyama N, Ishimura T, Oda T, et al.	泌尿器科	Association of the PCK2 Gene Polymorphism With New-onset Glucose Intolerance in Japanese Kidney Transplant Recipients	Transplant Proc. 2018 May; 50(4): 1045-1049	Original Article
79	Harada K, Nozawa M, Uemura M, et al.	泌尿器科	Treatment patterns and outcomes in patients with unresectable or metastatic renal cell carcinoma in Japan	Int J Urol. 2019 Feb; 26(2): 202-210	Original Article
80	Shiraishi Y, Terakawa T, Jimbo N, et al.	泌尿器科	Total necrosis after sequential treatment with pazopanib followed by nivolumab in a patient with renal cell carcinoma involving the inferior vena cava	Int J Urol. 2019 Feb; 26(2): 313-314	Original Article
81	Terakawa T, Hussein AA, Bando Y, et al.	泌尿器科	Presurgical pazopanib for renal cell carcinoma with inferior vena caval thrombus: a single-institution study	Anticancer Drugs. 2018 Jul; 29(6): 565-571	Original Article
82	Suzuki K, Sakamoto M, Terakawa T, et al.	泌尿器科	Serum DHEA-S Is a Predictive Parameter of Abiraterone Acetate in Patients with Castration-resistant Prostate Cancer	Anticancer Res. 2018 Oct; 38(10): 5929-5935	Original Article
83	Kimura H, Hayashi K, Taniguchi M, et al.	脳神経外科	Detection of Hemodynamic Characteristics Before Growth in Growing Cerebral Aneurysms by Analyzing Time-of-Flight Magnetic Resonance Angiography Images Alone: Preliminary Results	World Neurosurg. 2019 Feb; 122: e1439-e1448	Original Article
84	Kimura H, Taniguchi M, Hayashi K, et al.	脳神経外科	Clear Detection of Thin-Walled Regions in Unruptured Cerebral Aneurysms by Using Computational Fluid Dynamics	World Neurosurg. 2019 Jan; 121: e287-e295	Original Article
85	Imahori T, Okamura Y, Sakata J, et al.	脳神経外科	Stent Expansion and In-Stent Thrombus Sign in the Trevo Stent Retriever Predict Recanalization and Possible Etiology During Mechanical Thrombectomy: A Case Series of 50 Patients with Acute Middle Cerebral Artery Occlusion	World Neurosurg. 2018 Dec 28; 18: 32910-32913	Original Article

小計 8 件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

86	Nishida K, Matsushita T, Araki D, et al.	整形外科	Analysis of anterior tibial subluxation to the femur at maximum extension in anterior cruciate ligament- deficient knees	J Orthop Surg (Hong Kong). 2019 Jan-Apr; 27(1): 2309499019833606- 2309499019833606	Original Article
87	Matsushita T, Araki D, Hoshino Y, et al.	整形外科	Analysis of Graft Length Change Patterns in Medial Patellofemoral Ligament Reconstruction via a Fluoroscopic Guidance Method	Am J Sports Med. 2018 Apr; 46(5): 1150-1157	Original Article
88	Araki D, Thorhauer E, Tashman S	整形外科	Three-dimensional isotropic magnetic resonance imaging can provide a reliable estimate of the native anterior cruciate ligament insertion site anatomy	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2018 May; 26(5): 1311-1318	Original Article
89	Avıncsal MO, Jimbo N, Fujikura K, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Epigenetic down- regulation of SOX2 is an independent poor prognostic factor for hypopharyngeal cancers	Histopathology. 2018 Apr; 72(5): 826-837	Original Article
90	Teshima M, Shinomiya H, Otsuki N, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Complications in Salvage Surgery for Nasal and Paranasal Malignant Tumors Involving the Skull Base	J Neurol Surg B Skull Base. 2018 Jun; 79(3): 224-228	Original Article
91	Avinçsal MO, Shinomiya H, Teshima M, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Impact of alcohol dehydrogenase-aldehyde dehydrogenase polymorphism on clinical outcome in patients with hypopharyngeal cancer	Head Neck. 2018 Apr; 40(4): 770-777	Original Article
92	Takahashi M, Kosaka N, Wakui E, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Role of intensive nutrition support and prophylactic percutaneous endoscopic gastrostomy during concomitant chemoradiotherapy for oropharyngeal cancer	Int J Clin Oncol. 2018 Dec; 23(6): 1023-1028	Original Article
93	Teshima M, Otsuki N, Morita N, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Postoperative hypoparathyroidism after total thyroidectomy for thyroid cancer	Auris Nasus Larynx. 2018 Dec; 45(6): 1233-1238	Original Article
94	Fukuda Y, Katsunuma S, Uranagase A, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Effect of intranasal administration of neurotrophic factors on regeneration of chemically degenerated olfactory epithelium in aging mice	Neuroreport. 2018 Nov 7; 29(16): 1400-1404	Original Article

小計 9 件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

95	Mogi C, Shinomiya H, Fuji N, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Transoral videolaryngoscopic surgery for papillary carcinoma arising in lingual thyroid	Auris Nasus Larynx. 2018 Oct; 45(5): 1127-1129	Original Article
96	Kojima Y, Otsuki N, Kubo M, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Adenovirus-mediated transfer of HPV 16 E6/E7 antisense RNA combined with cisplatin inhibits cellular growth and induces apoptosis in HPV-positive head and neck cancer cells	Cancer Gene Ther. 2018 Oct; 25(9-10): 274-283	Original Article
97	Mori S, Kurimoto T, Ueda K, et al.	眼科	Short-term effect of additional apheresis on visual acuity changes in patients with steroid- resistant optic neuritis in neuromyelitis optica spectrum disorders	Jpn J Ophthalmol. 2018 Jul; 62(4): 525-530	Original Article
98	Mori S, Sakamoto M, Kurimoto T, et al.	眼科	Effectiveness and safety of sulcus fixation of Baerveldt glaucoma implants in glaucomatous eyes in patients who underwent multiple intraocular surgeries	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2018 Oct; 256(10): 1953-1960	Original Article
99	Nakai S, Matsumiya W, Otsuka K, et al.	眼科	The 24-month outcomes of intravitreal aflibercept combined with photodynamic therapy for polypoidal choroidal vasculopathy	Jpn J Ophthalmol. 2019 Jan; 63(1): 100-108	Original Article
100	Saito I, Hasegawa T, Ueha T, et al.	リハビリテーション科	Effect of local application of transcutaneous carbon dioxide on survival of random-pattern skin flaps	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2018 Nov; 71(11): 1644-1651	Original Article
101	Iwata E, Hasegawa T, Ueha T, et al.	歯科口腔外科	Transcutaneous carbon dioxide enhances the antitumor effect of radiotherapy on oral squamous cell carcinoma	Oncol Rep. 2018 Jul; 40(1): 434-442	Original Article
102	Yamanaka K, Eldeiry M, Roda G, et al.	心臓血管外科	Potential benefit of pharmacological induction of beta common receptor	J Thorac Cardiovasc Surg. 2018 Nov;156(5):1796- 1797	Original Article
103	Yamanaka K, Eldeiry M, Aftab M, et al.	心臓血管外科	Pretreatment With Diazoxide Attenuates Spinal Cord Ischemia- Reperfusion Injury Through Signaling Transducer and Activator of Transcription 3 Pathway	Ann Thorac Surg. 2019 Mar;107(3):733-739	Original Article

小計 9 件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

104	Yamanaka K, Eldeiry M, Aftab M, et al.	心臓血管外科	Synergetic Induction of NGF With Diazoxide and Erythropoietin Attenuates Spinal Cord Ischemic Injury	J Surg Res. 2019 Jan;233:124-131	Original Article
105	Yamanaka K, Eldeiry M, Aftab M, et al.	心臓血管外科	Synergistic Reduction of Apoptosis With Diazoxide and Erythropoietin in Spinal Cord Ischemic Injury	Ann Thorac Surg. 2018 Dec;106(6):1751-1758	Original Article
					合計 105件

小計 2 件

合計 105件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名・出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 ○ 審査申請手順について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 被験者の保護を最優先し、かつ、大学の社会的信頼を得つつ、臨床研究を適正に推進するために、利益相反が深刻な事態へと発展することの未然防止を目的として、利益相反のマネジメントを適切に実施する。マネジメントの実施のため、臨床研究利益相反マネジメント委員会を設置し、委員会は利益相反に関する重要事項を調査・審議・審査する。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 8 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 7 回
・ 研修の主な内容 臨床研究の全体像、治療開発のための研究形態、研究倫理と被験者保護等について e-learning 又は臨床研究推進セミナーを受講する。	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

<p>神戸大学医学部医学部附属病院内科専門医研修プログラム</p> <p>本プログラムは、神戸大学医学部附属病院ならびに兵庫県・大阪府の関連病院・連携施設群の中で、指導医の適切な指導の下で 3 年間の内科 医としてのバランスの良い研修を行い、社会人として成長すると同時に、医師として標準的かつ全人的な内科的医療が実践できる知識と技能を修得し、内科専門医を取得することを目標とするものである。</p>
<p>神戸大学放射線科専門研修プログラム</p> <p>本プログラムは神戸大学医学部附属病院放射線診断・IVR科と放射線腫瘍科を基幹施設とし、11ヶ所の総合修練機関、3ヶ所の特殊修練機関、13の修練機関に1つの関連施設を加えた専門研修施設群から構成されます。日本専門医機構が承認した専門研修プログラム整備基準に従い、放射線科領域における幅広い知識と技能、高い倫理性、コミュニケーション能力およびプロフェッショナルリズムを備えた放射線科専門医をめざして専攻医を教育します。</p>
<p>神戸大学小児科専門研修プログラム</p> <p>神戸大学小児科専門研修プログラムは、日本小児科学会が求める「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医となるに必要なかつ十分なプログラムであるだけでなく、将来のsubspecialty や個人のキャリアパスにも十分配慮した多様な選択肢を持つプログラムです。</p>
<p>神戸大学医学部皮膚科研修プログラム</p> <p>本プログラムは先進的かつ安全で標準的な医療を国民に提供できる、十分な知識と技術をもつ皮膚科専門医の養成を目的とする。本プログラムは神戸大学医学部附属病院を研修基幹施設として、21の研修連携施設病院と3つの準連携施設病院より構成されており、各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。プログラムの研修期間は5年間である。</p>
<p>神戸大学病院連携施設 精神科専門医研修プログラム</p> <p>統合失調症、気分障害をはじめとする児童思春期から老年期にわたる多岐の精神疾患の診断学、治療学について学び、看護師、作業療法士、精神保健福祉士などと多職種連携を行える精神科医を育てていく。</p> <p>プログラムの連携施設には、11施設の総合病院精神科神経科、19施設の公立・私立単科精神科病院が含まれ、専攻医はこれらの医療機関をローテーションしながら研鑽を積み、精神科医としての診療能力を向上させつつ、精神科専門医だけでなく精神保健指定医資格をも取得することを目標とする。</p>
<p>神戸大学外科専門研修プログラム</p> <p>神戸大学外科学講座の食道胃腸外科、肝胆膵外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺内分泌外科の6分野が連携してプログラムの作成と運営を行うことにより、各専攻医のライフプランに応じた効率的できめ細やかな研修の実施が可能である。連携施設として兵庫県、大阪府を中心に50施設を数え、志望する診療科や個々の希望に応じたフレキシブルな研修体制を構築している。</p>
<p>神戸大学整形外科専門研修プログラム</p> <p>「整形外科学領域の学識ならびに技術向上をはかり、優れた整形外科専門医を養成する」ことを目的とし、神戸大学附属病院を基幹施設とし、42連携施設で構成されている。</p>
<p>神戸大学医学部脳神経外科専門研修プログラム</p> <p>神戸大学医学部附属病院および連携施設において、それぞれの専門性を有した指導医のもと、症例を担当し臨床実地経験を蓄積します。連携施設は兵庫県内にほぼ集約され、基幹施設と連携施設での2018年の年間手術総数は5300件余りにおよび脳神経外科の全領域をカバーしています。地域の第一線医療、三次救急医療、脳血管障害専門医療、血管内治療、小児神経疾患、脊髄疾患、機能的疾患、脳腫瘍の集約的治療、神経内視鏡手術、定位放射線治療などの特色ある治療を行っている連携施設をローテーションすることが、当プログラムの大きな特徴です。</p>
<p>神戸大学眼科専門研修プログラム</p> <p>神戸大学眼科ならびに関係病院群での研修を通じて、これまで受け継がれてきた技術や知識を生かしながら、眼科医の知識と医療技術を高め、すぐれた眼科医を養成、患者にとって最善かつ先端の医療を希求し生涯にわたって研鑽をつみ眼科医療に貢献することを目的とする。初期2年の研修において1年間は基幹施設である神戸大学、他の3年間は研修状況に応じて大学ないし関係病院での専門医研修を行う。</p>
<p>神戸大学耳鼻咽喉科専門研修プログラム</p> <p>耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師としての人格を涵養し、耳、鼻・副鼻腔、口腔・咽頭、頭頸部の病態や疾患に対する豊富な知識と技術、経験を有し、国民に良質で安全な標準的医療を提供するとともに、更なる医療の発展にも寄与することができる耳鼻咽喉科専門医の育成を目的としています。</p>

<p>神戸大学泌尿器科専門医研修プログラム</p> <p>神戸大学医学部附属病院を基幹施設とする27の連携施設から構成されており、基本的には4年間のうち1年間、基幹施設で研修を行う必要がある。本研修施設群では、一般泌尿器科に加え、小児泌尿器科、生殖医療、腎移植などの専門的な連携病院を擁し、また、ロボット支援手術を実施する病院も12施設に及んでいる。以上のプログラムの特性により量的にも質的にも多彩な泌尿器科診療を研修することができる。</p>
<p>神戸大学産科婦人科研修プログラム</p> <p>本プログラムでは、医師として、また産婦人科医師としての基本的診療能力や幅広い知識を確実に習得し、社会に貢献できる産婦人科医師を育成することを目標としている。周産期、婦人科腫瘍、女性のヘルスケア、生殖医療、内視鏡手術、さらに医療過疎地における地域医療に特化した連携施設での研修により、幅広く、より高度な知識・技能を持つことが可能となるよう配慮している。さらに専門研修施設群における専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティ領域の専門医の研修を開始する環境も整えている。</p>
<p>神戸大学形成外科研修プログラム</p> <p>形成外科は臨床医学の一端を担うものであり、先天性あるいは後天性に生じた変形や機能障害に対して外科的手技を駆使することにより、形態および機能を回復させ患者のQuality of Lifeの向上に貢献する外科系専門分野です。当科専門研修プログラムは医師として必要な基本的診断能力（コアコンピテンシー）と形成外科領域の専門的能力，社会性，倫理性を備えた形成外科医を育成することを目的としています。</p>
<p>神戸大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム</p> <p>プログラムに所属する全ての専攻医が、研修期間4年間のうちの2年間で専門研修基幹施設、および連携施設において、専門研修に必要とされる特殊麻酔症例数を達成できるようローテーションを構築する。残り2年間の研修は、すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが、それぞれの専攻医のキャリアプランに合わせた調整が可能である。</p>
<p>神戸大学医学部附属病院 救急科専門研修プログラム</p> <p>基幹病院の大学では、ER、集中治療、外傷整形外科、ドクターヘリ、災害医療など救急医に必要な症例をまんべんなく経験させる。特に、総合内科と組んで、救急医療に限らず総合診療も経験させる。関連病院ではそれぞれの特徴を生かして、体幹外傷外科、ドクターカーによる病院前診療などを含めた幅広い救急医療を経験させる。</p>
<p>神戸大学医学部附属病院病理専門研修プログラム</p> <p>大学病院を含む多数の連携施設と結ぶ総合的病理医育成プログラム。各専門分野にわたる豊富な指導教官 general + subspecialty ～バランスのとれた優秀な病理医を育成、個性に応じたオーダーメイドのキャリアパスを作成、各自の興味に応じた高度専門病理学の修得、分子病理学的研究にも対応。</p>
<p>神戸大学リハビリテーション科専門研修プログラム</p> <p>リハビリテーション科専門医とは、病気や外傷、加齢などによって生じる障害を予防、診断、治療し、機能の回復並びに活動性の向上や社会参加に向けてのリハビリテーションを担う医師です。神戸大学リハビリテーション科研修プログラム(PG)は、患者から信頼され、まず、標準的な医療を提供できるリハビリテーション科専門医となるために、急性期、回復期、生活期のリハビリテーション医療に精通し、脳卒中、運動器、切断、小児、内部障害、そしてがんのリハビリテーションまで幅広く知識と経験を得られるよう、適切な教育を行い、十分な知識と経験を身に着けるため、神戸、播磨地区の病院群での研修を中心に構成されたプログラムになっています。本研修プログラムは、現在まで神戸大学医学部附属病院とその関連病院の先輩方が築き上げた素晴らしいリハビリテーション研修施設を横断して研修することで、日本をリードするリハビリテーション科専門医となるための基礎を身に着けてもらえると考えております。</p>
<p>神戸大学臨床検査専門研修プログラム</p> <p>臨床検査はEvidence Based Medicineにおける客観的な指標として、診療にかかせないものです。臨床検査の全般において、その品質の向上と維持に努め、適切かつ信頼性の高いサービスを通して良質で安全な患者診療に貢献する専門医が臨床検査専門医です。本研修プログラムでは、臨床検査医学総論、一般臨床検査学・臨床化学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学・輸血学、遺伝子関連検査学、臨床生理学の基本7科目の研修を行います。</p>

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

## 2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	129人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

## 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
西 慎一	腎臓内科	教授	34年	
田中 秀和	循環器内科	講師	20年	内科サブスペシャリティ領域
藤井 秀毅	腎臓内科	講師	21年	内科サブスペシャリティ領域
山本 正嗣	呼吸器内科	助教	17年	内科サブスペシャリティ領域
大西 輝	免疫内科	助教	14年	内科サブスペシャリティ領域
増田 充弘	消化器内科	助教	20年	内科サブスペシャリティ領域
浅原 俊一郎	糖尿病内分泌内科	特命助教	21年	内科サブスペシャリティ領域
上田 健博	脳神経内科	特命講師	16年	内科サブスペシャリティ領域
片山 義雄	血液内科	講師	27年	内科サブスペシャリティ領域
今村 善宣	腫瘍・血液内科	特定助教	11年	内科サブスペシャリティ領域
坂口 一彦	総合内科	准教授	30年	内科サブスペシャリティ領域
大路 剛	感染症内科		21年	内科サブスペシャリティ領域
村上 卓道	放射線科	教授	34年	
飯島 一誠	小児科	教授	33年	
錦織 千佳子	皮膚科	教授	38年	
曾良 一郎	精神科神経科	教授	35年	
掛地 吉弘	食道胃腸外科	教授	30年	
福本 巧	肝胆膵外科	教授	34年	
岡田 健次	心臓血管外科	教授	29年	
眞庭 謙昌	呼吸器外科	教授	27年	
尾藤 祐子	小児外科	准教授	24年	
國久 智成	乳腺内分泌外科	特命講師	18年	
黒田 良祐	整形外科	教授	28年	
甲村 英二	脳神経外科	教授	39年	
中村 誠	眼科	教授	30年	
丹生 健一	耳鼻咽喉・頭頸部外科	教授	30年	
藤澤 正人	泌尿器科	教授	35年	
山田 秀人	産科婦人科	教授	35年	
寺師 浩人	形成外科	教授	33年	
溝渕 知司	麻酔科	教授	34年	
小谷 穰治	救命救急科	教授	32年	
伊藤 智雄	病理診断科	教授	26年	
横崎 宏	病理診断科	教授	36年	
林 祥剛	病理診断科		37年	
廣瀬 隆則	病理診断科	特命教授	38年	
酒井 良忠	リハビリテーション科	特命教授	23年	
三枝 淳	臨床検査部門	講師	23年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容：補助人工心臓管理、院内感染対策</li><li>・研修の期間・実施回数：平成30年9月18日、平成31年2月14日</li><li>・研修の参加人数：142名、141名</li></ul>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<p>○ME機器に関する研修</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容：輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器 閉鎖式保育器、補助循環装置、そのたME機器の使用方法に関する研修</li><li>・研修の期間・実施回数：2018年4月1日～2019年3月31日 130回</li><li>・研修の参加人数：6449名</li></ul>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 平田 健一
管理担当者氏名	薬剤部長 矢野 育子 総務課長 井川 恭輔 管理課長 前田 正樹 学務課長 川端 清文 研究支援課長 佐良 俊久 医事課長 輪野 透 患者サービス課長 橋本 欣也

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	患者サービス課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	診療録センター
		看護記録	診療録センター
		検査所見記録	診療録センター
		エックス線写真	各診療科
		紹介状	診療録センター
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究支援課
		高度の医療の研修の実績	学務課
		閲覧実績	総務課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課・薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	患者サービス課
規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	患者サービス課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	患者サービス課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	患者サービス課	

病歴資料については診療録センターで集中管理を行い、エックス線写真、処方せん、病院日誌各診療科日誌は当該担当部署において、保管している。診療録の院外持ち出しは原則禁止としている。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	患者サービス課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	患者サービス課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	患者サービス課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	患者サービス課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	患者サービス課・薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	患者サービス課・薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	患者サービス課・薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	患者サービス課・薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	管理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	管理課
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	管理課
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	管理課		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	患者サービス課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	患者サービス課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	患者サービス課・薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	患者サービス課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	患者サービス課
		医療安全管理部門の設置状況	患者サービス課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	患者サービス課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	患者サービス課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	患者サービス課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	患者サービス課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者サービス課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	大学 内部統制室・神戸海都法律事務所(外部窓口)
		職員研修の実施状況	患者サービス課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	患者サービス課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	病院長 平田 健一	
閲覧担当者氏名	薬剤部長 矢野 育子      総務課長 井川 恭輔 管理課長 前田 正樹      学務課長 川端 清文 研究支援課長 佐良 俊久   医事課長 輪野 透 患者サービス課長 橋本 欣也	
閲覧の求めに応じる場所	応接室	
閲覧の手続の概要	総務課に申出を行い、応接室にて閲覧する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全管理に関する基本的考え方</li> <li>2. 安全管理委員会その他の当該病院等の組織に関する基本的事項</li> <li>3. 医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針</li> <li>4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li> <li>5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針（医療安全管理委員会に報告すべき事例の範囲報告手順を含む）</li> <li>6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li> <li>7. 患者からの相談への対応に関する基本方針</li> <li>8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針（高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合には、関係学会から示される「基本的考え方」やガイドライン等を参考に実施することを含む。）</li> </ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院における医療安全管理対策の策定及び変更</li> <li>2. 医療安全のための研修及び教育計画の策定</li> <li>3. 重要インシデントに関する分析・改善策の検討・対応の決定について</li> <li>4. その他、医療安全に関する全般事項</li> </ol>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 8 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全に関する職員必修講習（年2回）</li> <li>2. 研修医、看護師、外部委託職員に対する採用時研修</li> <li>3. 医学部学生に対する医療安全管理に関する卒前教育</li> <li>4. 看護部対象講習</li> <li>5. 医療安全に関する講習会</li> </ol>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療スタッフポケットマニュアルの配付</li> <li>2. 薬品情報検索システム</li> <li>3. 持参薬の病棟薬剤師による処方チェックシステム</li> <li>4. 是正処置実施計画書・報告書の作成</li> <li>5. 院内巡回の定期実施</li> <li>6. 医療の質・安全ネットワーク連絡会議の定期実施</li> <li>7. 死亡事例の全件報告</li> </ol>	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 院内感染対策に関する基本的考え方</li> <li>・ 院内感染対策のための委員会・組織</li> <li>・ 院内感染対策のための職員等に対する研修に関する基本方針</li> <li>・ 院内感染発生時の対応（報告体制含む）に関する基本方針</li> <li>・ 患者・家族等に対する指導およびインフォームドコンセントと当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>・ その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針（サーベイランス・院内ラウンド 抗菌薬適正使用支援・特定抗菌薬届出の監視・コンサルテーション・職業感染対策・マニュアルの編集・院内環境の整備）</li> <li>・ 感染制御の地域連携</li> </ul> </li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染対策委員会 年12回 感染制御部会 年12回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容：                     <p>MRSA及び耐性菌の検出報告、アウトブレイク疑い対応、院内ラウンド、医療関連サーベイランス、感染管理リンクナース会および感染制御部連絡会議開催、職業感染予防対策（結核曝露対策、ワクチン接種、血液・体液曝露予防など）、院内感染予防マニュアルの改訂、院内研修（必修講習会、ICP講習会など）の計画・実施。</p> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 16回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規採用者全員対象に、院内感染対策の基本と針刺し予防の講義およびデモンストレーション。</li> <li>・ 全職種に対して、職員必修講習会として年2回実施。医療安全部門と共に、時期に応じて院内感染対策上重要なポイントおよびトピックスや事例について講演。</li> <li>・ 全職員のうち希望者に対して、院内感染対策におけるベーシックな知識を得てもらうよう院内認定ICP育成講習会を年4回開催。</li> <li>・ 職種別や部門別（医師、看護師、診療技術部門等）対象に、各職種に応じた現場で遵守すべき感染対策の知識や技術について講義やトレーニング。</li> </ul> </li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( (有)・無 )                     <p>感染症法に決められている届け出が必要な感染症の報告体制、および感染対策上重要な感染症に対する感染制御部を中心とした監視体制。</p> </li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染対策実施状況を確認するために、定期（週1回）およびオンタイムに院内ラウンドを実施し、必要時指導。</li> <li>・ 抗菌薬使用状況を継続的に調査し、毎週開催の抗菌薬適正使用プロジェクトで抗菌薬の使用法を検討し、随時介入指導。</li> <li>・ 現場医療従事者からのコンサルテーションをうけて、随時対応。</li> <li>・ 侵襲処置・医療器具関連感染、血液・体液曝露のサーベイランスを実施。</li> <li>・ 職員に対して4種ウイルス（麻疹、風疹、水痘、ムンプス）の抗体価を調査し、基準値に満たない場合は院内でワクチン接種が行える環境を整備した。</li> <li>・ 新興・再興感染症の対応を協議し、院内全体に感染防止対策を周知徹底。</li> <li>・ 改築、改修時の院内のファンリティーマネージメントの実施。</li> <li>・ 医学科学生（BSL前）及び保健学科学生の実習前に、感染防止対策の講義と手指衛生や個人防護具の使用方法について演習を実施。</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 19回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>(1) 例年通り、新入局職員を対象としたオリエンテーションで医療安全を含めた医薬品に係る講習を実施した。講習内容は、処方箋の記載方法、医薬品の取り扱い方法、院内の薬剤に関する運用方法、薬剤関連の重大インシデント等である。</p> <p>(2) 全職員を対象とした講習会を6月に実施した。テーマは「不眠の対応と睡眠薬の適正使用について」である。習熟度確認のため、講習会終了後はマークシート方式による確認試験を実施した。</p> <p>(3) 薬剤部では部内で発生したインシデント事例等を情報共有する「安全管理と医薬品情報共有のためのカンファレンス」を月1回開催している。参加者には会終了後にアンケートを記載させており、薬剤部長、副薬剤部長、薬剤主任等はそれを回覧し業務改善に繋げている。</p> <p>(4) 例年どおり、新人看護師を対象とした「薬剤の基礎知識」をテーマとする講習会を実施した。また、病棟看護師を対象に「産科で使用する薬剤の基礎知識」「光学医療診療部で使用する薬剤の基礎知識」等について短時間の講習を実施した。</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・手順書の作成 (有・無)</p> <p>・手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 「医薬品の安全使用のための業務手順書」は必要に応じて改訂しているが、少なくとも年1回は改訂を行い医薬品安全管理委員会で審議し、医療安全管理委員会で承認を得ている。また、薬剤部職員はこの手順書に基づき作成した「医薬品安全管理点検表」を用いて薬剤部以外に保管する医薬品等の管理状況を確認している。管理状況に不備がある場合は管轄看護師長等に連絡し改善依頼を行っているが、平成30年度はネオフィリン注射液が遮光保管出来ていない部署があったため、その改善を依頼した (CT撮影室)。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば)： 未承認新規医薬品は2事例について承認したが、実際の投与には至っていない。適応外使用については8事例承認した。具体的には①神経内科「ヒト免疫不全ウイルス感染症を基礎疾患にもたない進行性多巣性白質脳症に対するメフロキンの投与」、②小児科「先天性リンパ管腫に対する越婢加朮湯の投与」、③肝胆膵外科「抗体関連拒絶反応に対するボルテゾミブの使用」、④循環器内科「肺腫瘍血栓性微小血管症 (PTTM) に対するイマチニブの投与」、⑤腫瘍・血液内科「irAE肝炎に対するMMF」、⑥呼吸器内科「ROS-1陽性進行期非小細胞肺癌に対するロルラチニブ (ロープレナ®) 療法」、⑦麻酔科「AnaConDa (Anaesthetic Conserving Device) を用いた吸入麻酔薬による鎮静」、⑧腫瘍・血液内科「irAE下痢・大腸炎に対するインフリキシマブ」であった。</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容： (1) 薬剤部の薬品情報室はPMDAナビや各種ホームページの閲覧によりイエローレター、ブルーレターを含む医薬品の安全使用のために必要な情報収集を行っており、得られた情報は速やかに院内周知している。また、イエローレター、ブルーレターについては当該薬剤の使用患者リストを病棟薬剤師に提供し、副作用発現状況等を確認すると共に、主治医等に情報提供を行っている。</p> <p>(2) 2016年9月より、薬剤部の主任質・安全マネージャーと医薬品安全管理者は安全使用の確認を目的として使用状況の確認を行う医薬品を選定し、薬品情報室に処方状況のデータ収集作業の指示を出している。その情報は院内発行紙の「くすのきスクエア」に掲載して院内周知を図ることとし、随時、医療の質・安全管理部、感染制御部が院内ラウンドを行う際に周知状況の確認を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年28回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： 人工呼吸器、除細動器、血液浄化装置、補助循環装置、人工心肺装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、療用放射線照射装置についての操作方法及び管理上の注意点とトラブルシューティングについて</li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 院内の臨床工学技士による定期点検（定期消耗品交換含む）と、製造販売メーカー実施における点検報告書の管理</li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：</li>   <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器に関する安全情報の提供と不具合報告の連絡体制の強化 医療情報端末（電子カルテ）を用いての安全情報の共有</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>副病院長 (医療安全担当) を医療安全管理責任者に選任し、医療の質・安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 5名 ) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医療の質・安全管理部と連携し、年4回程度発行する広報誌「くすのきスクエア」により周知徹底を図っている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>医薬品の安全使用のための業務手順書の改訂を行った。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有) ・無</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種：薬剤師 ) (所属： ， 職種 )</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有) ・無</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>インフォームドコンセントに関する責任者が定期的に入院診療録のピアレビューを行い、不十分な場合には適切に実施されるよう研修・指導を行っている。また、適切でない事例を医療の質・安全講座やくすのきスクエアで周知し、注意喚起している。</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療録管理責任者として配置された診療録センター長が以下について定期的実施状況の確認を行い、不十分な場合には、実施が適切になされるよう研修・指導等を行なっている。</p> <p>(1) 診療録等の記載内容の確認</p> <p>(2) 記載方法や内容の研修</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員： 専従（3）名、専任（2）名、兼任（2）名  うち医師： 専従（ ）名、専任（2）名、兼任（2）名  うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名  うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存，その他委員会の庶務に関すること</li> <li>（2）事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに，必要な指導を行うこと</li> <li>（3）高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関すること</li> <li>（4）患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに，必要な指導を行うこと</li> <li>（5）事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに，必要な指導を行うこと</li> <li>（6）医療安全管理対策に関する教育，研修の実施に関すること</li> <li>（7）患者の医療相談に関すること</li> <li>（8）医療安全に係る連絡調整に関すること</li> <li>（9）医療の質の評価に関すること</li> <li>（10）その他医療の安全対策の推進に関すること</li> </ol> <p>モニタリングの具体例</p> <p>院内全死亡例、予期せぬ急変事例、DVTの発症、手術・麻酔に関連した予期せぬ出来事 等</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。  ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（5件）、及び許可件数（5件）</p> <p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）病院長の命を受け，高難度新規医療技術の責任者として業務を掌理する</li> <li>（2）高難度新規医療技術の適否等について関係各部署に対し，意見を求める</li> <li>（3）決定した内容及び規程等の遵守状況を病院長に報告する</li> </ol> <p>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）</p>	

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 9 件）、及び許可件数（ 9 件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（  有 ・ 無 ）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（  有 ・ 無 ）
- ・活動の主な内容：
  - (1) 病院長の命を受け、未承認新規医薬品等を用いた医療の責任者として業務を掌理する
  - (2) 未承認新規医薬品等を用いた医療提供の適否等について関係各部署に対し、意見を求める
  - (3) 決定した内容及び規程等の遵守状況を病院長に報告する
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（  有 ・ 無 ）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（  有 ・ 無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 255 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 91 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
  - (1) インシデント、アクシデント等の報告（全死亡事例及び一定基準以上の有害事象等の報告）の実施の状況の確認、必要な検証及び確認結果の報告
  - (2) (1)の実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（  有 （病院名：琉球大学医学部附属病院 ） ・ 無 ）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（  有 （病院名：防衛医科大学校病院 ） ・ 無 ）
- ・技術的助言の実施状況  
「未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関する内規」を令和元年 9 月に改正し、未承認新規医薬品を用いた全ての症例について、単回使用については使用直後、継続使用については使用開始直後、半年後及び 1 年後に医薬品安全管理委員会に報告することとした。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者支援センターの総合相談部門に患者相談窓口を設置している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

6月及び1月に2回実施。

(6月) ・鎮静を甘く見ていませんか？

- ・不眠の対応と睡眠薬の適正使用について
- ・今考えておくべき院内感染対策、抗菌薬適正使用とその支援活動について
- ・医療ガスの安全使用
- ・個人情報の取扱いについて

(1月) ・中心静脈(CV)カテーテルの安全管理

- ・周術期抗菌薬の使い方
- ・患者さんも自分も守る標準予防策
- ・除細動器およびAEDについて
- ・入院診療録ピア・レビューの結果より

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

公益財団法人 日本医療機能評価機構が実施する平成30年度特定機能病院管理者研修を次のとおり受講した。

管理者(第2回(12/2)), 医療安全管理責任者(第3回(1/23)),

医薬品安全管理責任者(第2回(12/2)), 医療機器安全管理責任者(第1回(11/23))

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容            本学では、現病院長が平成30年2月1日に就任したこともあり、            新たな病院長選考方法については、令和元年12月頃制定予定です。</li>   <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（有・無）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無）</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無）</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無）</li> <li>・ 公表の方法            本学では、現病院長が平成30年2月1日に就任したこともあり、            新たな病院長選考方法については、令和元年12月頃制定予定です。</li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・合議体の主要な審議内容               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 主要人事（企画・管理部門の長，診療科長，中央診療施設等の長，薬剤部長，看護部長及び医療技術部長）に関する事項</li> <li>(2) 病院組織の改編に関する事項</li> <li>(3) 人事制度，定員の変更に関する事項</li> <li>(4) 予算の配分及び執行並びに決算に関する事項</li> <li>(5) その他答申を行うべき事項</li> </ul> </li> <li>・審議の概要の従業者への周知状況 ホームページ及び業務連絡会議にて報告</li> <li>・合議体に係る内部規程の公表の有無（(有)・無）※学内のみ公表</li> <li>・公表の方法 ホームページ</li> <li>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・(無)）※規則上は、意見を聴取できることとなっているが、平成30年度は聴取していない</li> </ul>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
平田 健一	○	大学教員（医師）	病院長
味木 徹夫		大学教員（医師）	国際がん医療・研究センター長
溝渕 知司		大学教員（医師）	副病院長
中村 誠		大学教員（医師）	副病院長
眞庭 謙昌		大学教員（医師）	副病院長
西村 善博		大学教員（医師）	副病院長
藤原 由佳		看護師	副病院長
前田 英一		大学教員（医師）	病院長補佐
伊藤 智雄		大学教員（医師）	病院長補佐
掛地 吉弘		大学教員（医師）	病院長補佐
佐々木 良平		大学教員（医師）	病院長補佐
永井 洋士		大学教員（医師）	企画・管理部門の長
河野 誠司		大学教員（医師）	企画・管理部門の長
青井 貴之		大学教員（医師）	企画・管理部門の長
坂口 一彦		大学教員（医師）	診療科長
西 慎一		大学教員（医師）	診療科長
森信 暁雄		大学教員（医師）	診療科長
児玉 裕三		大学教員（医師）	診療科長
小川 涉		大学教員（医師）	診療科長

松本 理器		大学教員（医師）	診療科長
南 博信		大学教員（医師）	診療科長
岩田 健太郎		大学教員（医師）	診療科長
村上 卓道		大学教員（医師）	診療科長
飯島 一誠		大学教員（医師）	診療科長
錦織 千佳子		大学教員（医師）	診療科長
曾良 一郎		大学教員（医師）	診療科長
木澤 義之		大学教員（医師）	診療科長
福本 巧		大学教員（医師）	診療科長
國久 智成		大学教員（医師）	診療科長
岡田 健次		大学教員（医師）	診療科長
尾藤 祐子		大学教員（医師）	診療科長
黒田 良祐		大学教員（医師）	診療科長
甲村 英二		大学教員（医師）	診療科長
丹生 健一		大学教員（医師）	診療科長
藤澤 正人		大学教員（医師）	診療科長
山田 秀人		大学教員（医師）	診療科長
寺師 浩人		大学教員（医師）	診療科長
原岡 剛一		大学教員（医師）	診療科長
明石 昌也		大学教員（歯科医師）	診療科長
小谷 穰治		大学教員（医師）	診療科長
酒井 良忠		大学教員（医師）	診療科長
三枝 淳		大学教員（医師）	中央診療施設等の長
大竹 寛雅		大学教員（医師）	中央診療施設等の長
豊永 高史		大学教員（医師）	中央診療施設等の長
宮良 高維		大学教員（医師）	中央診療施設等の長
杉本 幸司		大学教員（医師）	中央診療施設等の長
高橋 路子		大学教員（医師）	中央診療施設等の長
福沢 公二		大学教員（医師）	中央診療施設等の長
松本 賢亮		大学教員（医師）	中央診療施設等の長
矢野 育子		薬剤師	薬剤部長
丸山 孝樹		理学療法士	医療技術部長
曾谷 祐一		事務職員	事務部長
杉村 和朗		大学教員（医師）	理事

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（**有**・無）
- ・ 公表の方法  
ホームページ
- ・ 規程の主な内容  
医学部附属病院規則第3条第2項に「病院長は、病院全般の管理、運営を総括し、所属職員（病院配置教員を含む。）を監督する。」とある。  
職員の任免については、病院内の内部規則で定めたもの以外は、学長の任免になるが、その職員の選考（人選）にあたっては、病院長に権限が付与されている。副病院長、病院長補佐については、それぞれの設置要項により病院長の指名となる。  
主要人事（企画・管理部門の長、診療科長、中央診療施設等の長、薬剤部長、看護部長及び医療技術部長）及び予算の配分等の重要事項については、医学部附属病院規則第3条第3項、執行部内規第3条及び運営審議会内規第4条により、病院長及び副病院長等により組織される執行部等において決定される。  
以上のことから、病院長に一定の人事・予算執行権限が付与されていることを明確化している。
- ・ 管理者をサポートする体制（副病院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
  - ・ 神戸大学医学部附属病院副病院長設置要項を定めており、副病院長は、病院長の職務を分担し、病院長不在の際はその職務を代行することとなっている。
  - ・ 神戸大学医学部附属病院病院長補佐設置要項を定めており、病院長補佐は、病院の管理運営等に関する個別の具体的事項について企画立案を行い、病院長に提言することとなっている。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
  - ・ 人事について  
病院内の内部規則で定めたもの以外は、学長の任免になるが、その職員の選考（人選）にあたっては、病院長に権限が付与されている。副病院長、病院長補佐については、それぞれの設置要項により病院長の指名となる。  
また、主要人事（企画・管理部門の長、診療科長、中央診療施設等の長、薬剤部長、看護部長及び医療技術部長）については、医学部附属病院規則第3条第3項、執行部内規第3条及び運営審議会内規第4条により、病院長及び副病院長等により組織される執行部等において決定される。
  - ・ 研修について  
公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「平成30年度特定機能病院管理者研修」を病院のマネジメントを担う者（副病院長2名、病院長補佐1名、医療の質・安全管理部長）に受講させ、その育成を行っている。  
また全国国立大学病院長会議でも企画している「病院長塾」や次世代の管理者を担う人材を教育するイベントが行われているが、そこに副病院長や特に若い副病院長を参加させる一方、文部科学省のプロジェクト課題解決型の実践的医療経営マネジメント人材養成プランに、将来管理職になるであろう医師や看護師、事務等を参加させて、次世代の大学病院を担う人材を教育している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する  
状況

監査委員会の設置状況					(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>下記業務について、病院長に対し報告を求め、必要に応じて実地監査を行う</p> <p>(1) 医療安全管理に係る体制</p> <p>(2) 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務の状況</p> <p>(3) 医療の質・安全管理部の業務の状況</p> <p>(4) 医療に係る安全管理のための委員会等の業務の状況</p> <p>(5) その他医療安全管理に関して必要な事項</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 公表の方法：ホームページ</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
寺尾 秀一	加古川中央市民病院 副院長/臨床研究・ 治験センター長/診 療部長/内科主任科 部長/医療安全管理 部長/医療安全推進 室長	○	医療に係る安全管理又 は法律に関する識見を 有する者その他の学識 経験を有する者	有・(無)	1
丸山 英二	慶応義塾大学大学院 健康マネジメント研 究科 特任教授(非常勤)		医療に係る安全管理又 は法律に関する識見を 有する者その他の学識 経験を有する者	有・(無)	1
武田 高	関西住宅品質保証株 式会社監査役 (非常勤)		医療を受ける者その他 の医療従事者以外の者	有・(無)	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・ 体制の整備状況及び活動内容  
管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制については、国立大学法人神戸大学内部監査規程（平成16年4月1日制定）に定める内部監査その他の本学において実施する各種監査により整備されている。  
なお、管理者は、内部統制システム（e-learning）研修を受講し、病院における内部統制システム実施状況を定期的に学長に報告している。  
学長は、報告の結果必要と認めるときは、内部統制委員会の議を経て改善を管理者に命ずる。  
管理者は、改善内容及び結果について学長に報告する。
  
- ・ 専門部署の設置の有無（  有 ・ 無 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（  有 ・ 無 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（  有 ・ 無 ）
- ・ 公表の方法  
ホームページ

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況              開設者（学長）による特定機能病院（医学部附属病院）の業務の監督に係る体制については、病院業務監督会議において、病院の運営方針、中期計画、予算及び決算その他の附属病院の管理運営に関する重要事項について監督されており、確保されている。</li>   <li>・ 会議体の実施状況（ 年1回 ）</li>   <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年1回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）</li>   <li>・ 公表の方法              ホームページ</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：国立大学法人神戸大学医学部附属病院業務監督会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
杉村 和朗	神戸大学	○	<input checked="" type="radio"/> 有・無
平田 健一	神戸大学医学部附属病院		<input checked="" type="radio"/> 有・無
上田 裕一	奈良県立病院機構		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
木下 芳一	製鉄記念広畑病院		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
森 悦朗	大阪大学大学院連合小児発達学 研究科		有・ <input checked="" type="radio"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年 0 件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法 神戸大学医学部附属病院ホームページや、医療者全員に配布するポケットマニュアルに掲載している。</li></ul>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 機関名：日本医療機能評価機構 評価を受けた時期：平成 2 7 年 1 2 月（認定期間 平成27年3月28日～平成32年3月27日）	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 方法：病院ホームページに掲載 内容：各種治療実績・成績、医療機能情報提供、先進的な医療について	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・呼吸器センター（呼吸器内科、呼吸器外科等）、腫瘍センター（腫瘍・血液内科、緩和 支持治療科等）、I C Uにて複数の診療科が連携し対応。	